

令和5年度 農作業安全総合対策推進

農作業安全に係る普及啓発手法の見直し等

結果報告書

令和6年3月

一般社団法人 日本農業機械化協会

まえがき

我が国の農作業事故については長年さまざまな対策が実施されてきたところですが、単位農業従事者数当たりの死亡者数は、残念ながら今なお横ばいもしくは若干上昇との傾向を示しています。令和4年の死者数は238人とかなりの数に達しており、単位当たり死亡者数は全産業平均の10倍程度となっています。

このような状況下、農林水産省におかれてはここ数年、乗用型トラクターのシートベルト装着促進へのキャンペーン的取組みが実施されてきました。これは死亡事故の第一原因が乗用型トラクターであること、警察データの分析により少なくとも公道上においてはシートベルト装着のある・なしで死亡率が8倍違うことが判明したからです。ほ場を含む乗用型トラクター死亡事故で最も多いのが転落・転倒であることから、公道・ほ場を問わずシートベルトの装着によりかなりの命が救えるものと見込まれます。

しかしながら農業現場では、トラクターは比較的低速であるのでそこまでしなくても大丈夫との認識があること、ほ場では頻繁に乗り降りしたり後ろを振り返るのに邪魔になること、法的義務もないこと等から装着率は高いとはいえないのが実態です。

このため、本年度の農林水産省「農作業安全総合対策推進」事業においてシートベルト装着促進啓発活動の効果検証等が実施されることとなり、本協会がその任にあたることとなりました。本報告書はその取組み結果を取りまとめたものですが、当該事業の実施・報告内容が我が国農作業の安全化に寄与し、悲惨な事故の減少につながるものになることを期待いたします。

最後となりましたが、本事業の対象としてお忙しい中、研修受講・アンケートご回答などにご対応いただいた農業者の皆さま、声かけ・調査を実施した各県農業機械士の皆さまに感謝を申し上げます。また、研修実施・調査取りまとめにご協力いただいた自治体やJA・農機販売組織の皆様、さらには動画制作をはじめとして全般的にご指導・ご助言をいただいた農研機構農業機械研究部門の皆様にも深甚の感謝を申し上げます。次第です。

【目 次】

ページ

緒 言

1. 事業の全体構成と実施経緯…………… 1
2. 事業の実施方法…………… 1

I. シートベルト着用状況の調査及び啓発活動の効果検証

1. 実施カ所、日程等…………… 3
2. 栃木県…………… 5
3. 千葉県…………… 8
4. 富山県…………… 10
5. 京都府…………… 12
6. 福岡県…………… 13
7. 各県取組みの概括…………… 15
8. 全体集計…………… 15
 - 1) シートベルトの装着状況…………… 16
 - 2) ヘルメットの装着状況…………… 20

II. 研修実施の効果検証

1. 実施カ所、日程等…………… 22
2. 岡山県 倉敷河上農機大商談会 農作業安全研修 (5.7.21・22) …… 23
3. 全農福岡 大特免許講習会 …… 29
4. ヤンマーアグリフェア In 茨城／In 長岡 …… 33
5. オホーツク地区農作業安全・労務管理・応急救護研修会 (5.11.29) …… 39
6. JA きたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ合同意見交換会 (5.12.18) …… 42
7. 館林市 農業塾 (6.2.6) …… 47
8. アンケート結果の概括…………… 51
9. 全アンケート結果の集計…………… 51
 - 【アンケート結果2回目：意見・感想欄】 …… 54

III. 普及啓発手法の見直しとその効果の共有

1. 手法の方向性…………… 60
2. シートベルト啓発動画の作成「シートベルトしていますか」
 - (1) 内容・構成等 …… 60
 - (2) 企画・撮影・編集 …… 63
 - (3) 公開 …… 63

IV. 参考資料

1. シートベルト啓発用パンフレット…………… 64
2. 調査担当農業機械士への説明用資料…………… 66
3. 横芝光町農業振興大会 農作業安全研修資料 (抜粋) …… 71

4. 富山県アグリ・ネット・ASAHI農作業安全講習会 研修資料……………	72
5. アンケート調査票様式……………	73
6. 岡山県倉敷河上農機大商談会 安全研修資料（抜粋） ……………	77
7. 全農福岡 大特免許講習会 シートベルト啓発資料……………	78
8. JA きたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ合同意見交換会 研修資料……	79
9. 館林市農業塾 研修資料（抜粋） ……………	81

緒 言

1. 事業の全体構成と実施経緯

本報告書は、以下の農林水産省補助事業（令和5年度持続的生産強化対策事業のうち農作業安全総合対策推進 農作業安全に係る普及啓発手法の見直し等への支援）の実施状況について記述したものである。

農作業安全総合対策推進

- (1) 乗用型トラクターのシートベルト着用状況の調査及び啓発活動の効果検証
- (2) 研修実施の効果検証
- (3) 普及啓発手法の見直しとその効果の共有

「農作業安全総合対策推進」の名を冠した事業は、農林水産省の農作業安全に関する補助事業の中心的なものとして平成28年度から実施されてきており、普及啓発資料の作成やモデル的な研修の実施、高齢者使用農機の調査点検などが行われてきた。特に令和3年度には本事業により「農作業安全に関する指導者向け研修」が47の全都道府県で行われ、3,300人の指導者が育成されている（当該研修は、次年度以降は直接、農林水産省で実施されており、現在では指導者数は累計約5,000人となっている。）。

また、令和2年度には「農林水産業・食品産業における労働安全強化対策推進事業のうち農業機械安全性向上対策強化委託事業」の一部において、道路上における農業機械の事故実態が警察データを用いて分析されたが、そのなかでシートベルト装着の有用性が数値をもって明らかとなった。この結果をもって、農林水産省では乗用型トラクターのシートベルト装着推進を図ってきたところであるが、農業現場における実際の装着率さえ実は必ずしも明らかではなく、本事業はその実態を調査するとともに効果的な装着率向上の手法を探ろうとするものである。

なお、シートベルト装着の推進が乗用農業機械全般ではなく乗用型トラクターに限られているのは、一般に安全キャブ・フレームが装備されているのが同機のみであり、それと併用することに意味があるシートベルトも装備はほぼ同機のみとなっているからである。

2. 事業の実施方法

(1) の事業は、現地における実際のトラクター運行中（ほ場作業・道路運行）、運転者がシートベルトを装着しているか否かを集計するとともに、シートベルト装着の啓発活動を行い、当該啓発活動が装着率上昇に効果があるかどうかを検証しようとするものである。

農業者へのアンケートではなく、観察により装着率を明らかにするという取組みは

人手と手間を要するなかなか困難な作業であるが、全国5県の農業機械士会の協力を得て、それぞれの県の農業機械士の皆様が現地に出向いて実施して下さり、貴重なデータを得ることが出来た。このような取組みは、昨年度の農作業安全総合対策推進事業のなかでいわば試行的に実施したが、本年度は更に本格的に実施し、同一地域で複数回に渡って観察データを得たものである。

(2) に関しては同じくシートベルト装着促進を図るための研修を実施し、その効果については主として受講者のアンケートによって明らかにするものである。当該アンケートは通常の実施直後のみに実施する方式と異なり、①研修受講前、②研修受講後概ね1ヵ月後の2回に渡ってアンケートを行うことを原則とした。これは①はシートベルトに関して特段の意識がないと思われる受講前に、いわば正直な装着状況を回答してもらって実態を把握すること、②については受講後、実際にトラクターに乗る機会を確保して自らの状況がどうだったかを報告してもらい、研修効果を把握することを目的としたものである。

これらの結果を受け(3)の手法見直し等につなげるということであるが、加えて安全研修等に用いることを想定したシートベルト装着促進のための動画を作成・公開した。

I. シートベルト着用状況の調査及び啓発活動の効果検証

1. 実施カ所、日程等

緒言で述べたとおり観察により装着率を調査する本取組みは、概要下表のとおり5府県で実施し、早いところは4月早々に調査を開始して、最後は翌年2月末まで調査が行われた。調査対象のトラクター台数は延べ513台に及ぶ。啓発の手法としては、研修会実施、展示会等における啓発、調査時の現場における個別の声かけが主体であるが、栃木県のようにラジオCMを契約して放送するとのユニークな取組みが行われたところもある。

県名	啓発内容	装着率調査（期間、台数）				その他
		第1回	第2回	第3回	計	
栃木	展示会での啓発、 ラジオCM	8/20～9/30 19	10/5～12/25 62	-	81	展示会等での アンケートも 実施 327
千葉	研修会、現場での 個別声かけ	4/9～5/20 51	10/19～2/1 45	-	96	
富山	研修会、現場での 個別声かけ	5/1～7/30 37	9/4～11/21 27	10/4～12/8 18	82	
京都	現場での個別声か け	5/4～6/1 39	2/24～2/29 27	-	66	
福岡	JAフェアにおけ る啓発	6/3～9/21 59	7/17～10/27 59	10/10～12/14 70	188	
合計		205	220	88	513	

なお、調査期間が前回と次回で重複しているカ所があるが、これは県毎に複数人で取り組んでいるため、個々人での調査では順番どおりでも合計すると重複する場合があるためである。

取組みとしては、「現場での個別声かけ」が多くなっているが、これは装着率調査そのものが、農業機械士が地元を中心として現場に出て観察をするという手法を取ったこととも関係する。ただ観察だけをするのではなく、地元の人的つながりのあることが多い調査相手に声をかけて、可能ならシートベルトに関する啓発活動も合わせて実施するようにした。もとより全くの部外者が戸外で観察のようなことをするのは、不審者として疑われる恐れもあり、このような取組みとした訳であるが、結果的にはフェイストゥーフェイスで会話を交わして啓発するチャンスともなった。このような際に相手に渡す啓発パンフレット（64ページ参照）を作成し、また必要に応じてノベルティグッズ（非常用ホイッスル）も準備した。後者に関しては、人に声をかけるにあたって会話の端緒ともなりやすく、このような活動にあたって効果的であることが多かった。

2. 栃木県

(1) パワフルアグリフェア（JA グループ栃木開催）

① 啓発内容

7月22～23日に農業関連資材の展示を主体とする標記フェアが開催され、同フェアには「農作業安全コーナー」が設けられ、栃木県農業機械士会による来場者への声かけ、パンフレット等を用いた安全啓発が実施された。

第22回 JAグループ栃木 農業機械大展示会

パワフルアグリフェア

生産振興とJAグループへの結集を図り、持続可能な農業を実現します。

展示会場・数量限定！
特価品販売！

厳選で豪華原品があたる
クイズラリー開催

1日限定の特別価格
ハジメの原俊作 22日・23日

7/22±23日
AM9:00～PM3:00 (受付PM2:30まで)

会場 みずほの自然の森公園
東駐車場特設会場
住所：栃木県宇都宮市西刑部町 1861

主催 JAグループ栃木
(農業協同組合・全農栃木県本部)

協賛 栃木県・JA栃木中央会・JA共済連栃木
農林中央金庫宇都宮支店
JA全農とちぎ取扱関連メーカー

パワフルアグリフェア2023

最新農機展示コーナー 農作業安全コーナー
肥料・農業コーナー [たちつとちぎ] とちぎを食べようコーナー
営農情報発信コーナー 中古農機情報コーナー

来場組合員特典
1 オリジナルキャップ プレゼント!!
2 昼食サービス (※数に限りがございます)

臨時駐車場よりシャトルバスを運行いたします。

安全コーナーは下図黄色部分

安全コーナーは下図黄色部分

②取組みの効果

本フェアの開催日は栃木県における第1回調査日より前であることから、当該フェアでの啓発による効果をシートベルト観察調査結果と紐付けることは出来ないが、一方本フェア来場者にシートベルト等に関する聞き取りアンケート調査を実施した。加えて来場者を対象に後日（12月）電話による聞き取り調査を実施して、本啓発活動の効果を検証している。

栃木アグリフェアにおけるアンケート調査及び後日調査

		シートベルト	ヘルメット
フェア時 7/22～23	装着	55 (22.0%)	24 (9.8%)
	非装着	193 (77.2%)	222 (90.2%)
	装備なし	2 (0.3%)	—
	合計	250 (100.0%)	246 (100.0%)
来場者後 日調査 12/3～9	装着	10 (23.8%) +1.8%	10 (23.8%) +14.0%
	非装着	31 (73.8%)	32 (76.2%)
	装備なし	1 (2.4%)	—
	合計	42 (100.0%)	42 (100.0%)

本調査ではシートベルトについては啓発後、若干の装着率上昇はみせているが誤差の範囲ともいえ、啓発活動の効果が見られたというのは難しい。なお、フェア時のアンケートにおける装着率が22.0%と、他の調査と比べてかなり高くなっており、この数字がそのまま実態を表しているかについては議論の余地もあると考えられ、アンケートによる調査の限界とも見込まれる。一方、ヘルメットに関しては後日調査の装着率が2倍以上と、大きな上昇をみせている。

(2) ラジオCM

① 啓発内容

本事業のなかで、栃木県農業機械士会によりローカルFMラジオ(RADIO BERRY)を用いてシートベルト及びヘルメット装着促進のCMを放送した。概要は次のとおりである。

【放送内容】：20秒間、以下内容を女性アナウンサーの声により放送
 栃木県農業機械士会からのお知らせです。
 現在、秋の農作業安全運動を実施しています。
 お父さん、トラクターに乗る時はヘルメットとシートベルトを忘れないでね。
 仕事を終えて無事に帰るあなたのこと、家族みんなが待ってます。

【放送回数等】

10月1日～11月5日の間 計18回

(月)			(火)			(水)			(木)			(金)			(土)			(日)		
放送日	時刻	秒数 略号	放送日	時刻	秒数 略号	放送日	時刻	秒数 略号												
10/02	11:58	20				10/04	14:58	20				10/06	11:41	20				10/08	10:53	20
			10/10	14:58	20				10/12	11:48	20							10/15	11:53	20
10/16	11:58	20				10/18	14:58	20				10/20	11:41	20				10/22	11:53	20
			10/24	11:28	20				10/26	14:58	20							10/29	11:53	20
10/30	14:58	20				11/01	11:53	20										11/05	11:53	20

費用：200,000円(税込み)

② 取組みの効果

農業者は農作業中、自動車運転中、休憩時などにラジオを聞く人は結構多く、瞬発的な効果はともかく長期間地道に取り組めば、効果が上がってくるのではないかと期待される。本取組みの前後での装着率実態調査は次のとおりである。

ラジオ CM 前後の実地調査による装着率の変化（栃木県）

シートベルト					
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計
		作業中	走行中	休憩中等	
CM 前 8/20 ~ 9/30	装着	0	0	0	0 (0.0%)
	非装着	5	6	6	17 (89.5%)
	装備なし	1	1	0	2 (10.5%)
	合計	6	7	6	19 (100.0%)
CM 後 10/5 ~ 12/25	装着	1	1	0	2 (3.4%) +3.4%
	非装着	38	12	6	56 (96.6%)
	装備なし	0	0	0	0 (0.0%)
	合計	39	13	6	58 (100.0%)

ヘルメット					
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計
		作業中	走行中	休憩中等	
CM 前 8/20 ~ 9/30	装着	0	1	0	1 (5.3%)
	非装着	6	6	6	18 (94.7%)
	合計	6	7	6	19 (100.0%)
CM 後 10/5 ~ 12/25	装着	1	0	0	1 (1.6%) -3.7%
	非装着	39	16	6	61 (98.4%)
	合計	40	16	6	62 (100.0%)

残念ながらこの実地調査結果をもって、本取組みによる効果が上がったとの検証をするのは難しい。もともと低い装着率がシートベルトでは+3.4%と若干上がっているものの、ヘルメットでは逆に下がっており、どちらも誤差の範囲といえる程度の変化である。前述のとおり、このような取組みは短期間で顕著な成果というよりも、地道に長期間実施すべきものと目される。

3. 千葉県

(1) 啓発内容

- 横芝光町農業振興大会における農作業安全研修（横芝光町農業振興会主催）
同振興会では毎年大会に際してテーマを定めて研修・講演等を行っており、本年度は「農作業の安全について」が実施された。

日時等：9月28日 14:20～16:00

参加者：農業振興会会員 農業者47名、農協等11名、事務局6名、合計64名

講師：横芝光町農業機械部会 鈴木部会長

日本農業機械化協会 氣多

※研修資料はP.71～参照

鈴木部会長の講演は地元の取組み状況が主体。

日本農業機械化協会からは特にトラクターシートベルト・ヘルメットに関することを詳細に説明した。

横芝光町 農業振興大会
これからの農業を考える

令和5年9月28日(木) ←
14:00～16:00 (受付 13:30～) ←
横芝光町町民会館 大ホール←

【開会式】 14:00～

◆講演 14:20～16:00

『農作業の安全について』

発表者 横芝光町農業機械部会
部会長 鈴木 昌信 氏

講師 日本農業機械化協会
技術顧問 氣多 正 氏

入場無料

〈講師紹介〉 氣多 正 氏
昭和53年に農林省に入省。主な経歴として生物系特定産業技術研究推進機構において企画部長、農林水産省において農林水産技術会議事務局地域研究課長、平成27年に農林水産省九州農政局次長を最後に退職されるまで、長年、農業行政に携わられました。
平成27年に(一社)日本農業機械化協会の専務理事に就任し、現在は同協会の技術顧問であり、その他、全国各地の研修会等で講師としてご活躍中です。

主催 横芝光町農業振興会
後援 横芝光町・ちばみどり農業協同組合・山武郡市農業協同組合
問合せ 横芝光町役場産業課(TEL: 0479-84-1215)

☆☆☆ どなたでも聴講できますので、お気軽にご来場ください。☆☆☆

(2) 取組みの効果

本取組みの前後での装着率実態調査は次のとおりである

なお、当該大会における講演・研修に加えて第1回目の実地調査時等に、調査相手先に特にシートベルトに関する声かけ・啓発を行っており、以下のデータはその効果も含んだものとなっている。

横芝光町近辺の実地調査による装着率の変化（千葉県）

シートベルト					
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計
		作業中	走行中	休憩中等	
大会前	装着	0	1	0	0 (0.0%)
4/9 ~	非装着	35	13	2	17 (89.5%)
5/20	装備なし	0	0	0	2 (10.5%)
	合計	35	14	2	19 (100.0%)
大会後	装着	10	3	0	13 (28.9%) +28.9%
10/19 ~	非装着	24	4	2	30 (66.7%)
2/1	装備なし	2	0	0	2 (4.4%)
	合計	36	7	2	45 (100.0%)

ヘルメット					
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計
		作業中	走行中	休憩中等	
大会前	装着	0	0	0	0 (0.0%)
4/9 ~	非装着	32	14	2	48 (100.0%)
5/20	合計	32	14	2	48 (100.0%)
大会後	装着	2	0	0	2 (4.9%) +4.9%
10/19 ~	非装着	30	7	2	39 (95.1%)
2/1	合計	32	7	2	41 (100.0%)

研修・声かけどちらの効果が大いのかは別として、シートベルトに関しては実施前0%だった装着率が3割近くと大幅にアップしている。地元で調査実施者と客体に顔見知りが多いと「装着率調査をこれから実施する」などの情報が伝わり、装着率が高く出るというケースもあるかも知れないが、いずれにせよ大変好ましい調査結果となった。一方、ヘルメットの方は微増に止まっており、こちらについても研修等でもっと強調すべきだったかも知れない。

4. 富山県

(1) 啓発内容

○アグリ・ネット・ASAHI 農作業安全講習会（同ネット主催）

富山県朝日町の農業者組織アグリ・ネット・ASAHI では、毎年、農作業安全の講習会等を実施しているが、本年度は特にシートベルトを強調した研修が行われた。

日時等：8月18日 13:30～16:00

参加者：同ネット会員農業者、農協・行政関係者ほか合計約50名

講師：警察官駐在所巡査長→公道上等の注意事項説明 ※研修資料はP.72参照

日本農業機械化協会→啓発動画「トラクター安全作業の基本」を上映。同動画では、シートベルトを強調。口頭で補足説明。

刈払機販売店

自動操舵システム販売店

(2) 取組みの効果

本取組みの前後での装着率実態調査は次のとおりである

なお、当該大会における講演・研修に加えて第1回目の実地調査時等に、調査相手先に特にシートベルトに関する声かけ・啓発を行っており、以下のデータはその効果も含んだものとなっている。

朝日町近辺の実地調査による装着率の変化（富山県）

		シートベルト				
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計	
		作 業 中	走 行 中	休 憩 中 等		
講習会前	装着	12	1	4	17	(45.9%)
1回目	非装着	9	2	9	20	(54.1%)
5/1～	装備なし	0	0	0	0	(0.0%)
7/30	合計	21	3	13	37	(100.0%)
講習会后	装着	18	0	6	24	(88.9%) +43.0%
2回目	非装着	1	0	2	3	(11.1%)
9/4～	装備なし	0	0	0	0	(0.0%)
11/21	合計	19	0	8	27	(100.0%)
講習会后	装着	8	0	10	18	(100.0%) +54.1%
3回目	非装着	0	0	0	0	(0.0%)
10/4～	装備なし	0	0	0	0	(0.0%)
12/8	合計	8	0	10	18	(100.0%)

ヘルメット					
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計
		作 業 中	走 行 中	休 憩 中 等	
講習会前1	装着	11	1	2	14 (37.8%)
5/1 ~	非装着	10	2	11	23 (62.2%)
7/30	合計	21	3	13	37 (100.0%)
講習会后2	装着	16	0	1	17 (63.0%) +25.2%
9/4 ~	非装着	3	0	7	10 (37.0%)
11/21	合計	19	0	8	27 (100.0%)
講習会后3	装着	8	0	7	15 (83.3%) +45.5%
10/4 ~	非装着	0	0	3	3 (16.7%)
12/8	合計	8	0	10	18 (100.0%)

この富山県におけるデータは、かなり特殊なものとなっている。もともと農作業安全活動に熱心な法人経営者である農業機械士を中心に、上記安全講習や声かけ・啓発活動が行われており、調査対象も当該活動関係者・講習受講者が主体であるため、シートベルト装着率は他調査と比べて極端に高くなっている。一方、このデータは研修効果の検証には意味のあるものと思われ、もともと45.9%と高かった装着率が、声かけの効果とも合わせて、2回目には90%近く、3回目では100%を達成している。

ヘルメット装着についても同様の傾向で、他地域と比べて有意に高く、3回目では80%を超えている。熱心な啓発や、ある程度「決まり」としての定着を図れば農業でも他産業と同様の高い装着率を実現できる例といえ、同様の取組みを全国に広げていくべきである。

5. 京都府

(1) 啓発内容

京都府での取組みは、第1回調査時の声かけ・啓発が主体である。一部第1回調査時以外に、個別に農業者への啓発が実施されている。なお、亀岡市と南丹市の2カ所で取組みが行われており、表中の数字は両者を合計したものである。

(2) 取組みの効果

実地調査による装着率の変化（京都府）

シートベルト					
		ほ 場 作業中	道 路 走行中	そ の 他 休憩中等	合 計
1回目	装着	1	0	1	2 (5.3%)
5/4 ~	非装着	27	3	2	32 (84.2%)
6/1	装備なし	4	0	0	4 (10.5%)
	合計	32	3	3	38 (100.0%)
2回目	装着	0	0	7	7 (25.9%) +20.6%
2/24 ~	非装着	0	0	20	20 (74.1%)
2/29	装備なし	0	0	0	0 (0.0%)
	合計	0	0	27	27 (100.0%)

ヘルメット					
		ほ 場 作業中	道 路 走行中	そ の 他 休憩中等	合 計
1回目	装着	1	0	0	1 (2.6%)
5/4 ~	非装着	32	3	3	38 (97.4%)
6/1	合計	33	3	3	39 (100.0%)
2回目	装着	0	0	1	1 (3.7%) +1.1%
2/24 ~	非装着	0	0	26	26 (96.3%)
2/29	合計	0	0	27	27 (100.0%)

本調査は、1回目については予定どおりフィールドで実施されたが、2回目は取組みの都合上、基盤整備・農地集積等のための集会時に於いて主として聞き取りにより実施された。このため、データの比較による検証を行うには限界があるが、一方では比較的狭い地域で実施されたため1回目と2回目の客体に相違が少なく、信頼性が高いという面もある。

シートベルト装着率に関しては、2回目が大きな上昇をみせており、声かけ・啓発の効果が上がっているといえる。ただしヘルメットに関しては1回目、2回目ともにゼロに近い調査結果であり、残念ながら意識が高まったとはいえない。

6. 福岡県

(1) 啓発内容

○ J A 福岡「あぐりフェスタ 2023」における農作業安全コーナー
(福岡県農業機械士会が開設)

日時等：7月21日～22日

場所：西日本総合展示場（福岡県北九州市小倉北区）

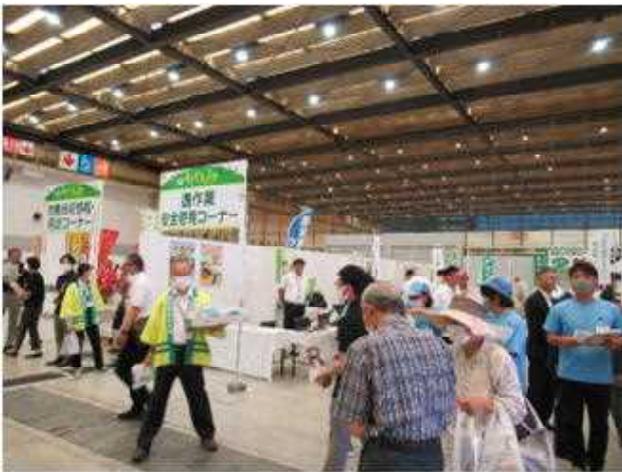
総来場者数：約 4,000 人

農作業安全コーナー来場者数（アンケート回答者数）：約 200 人

活動概要：口頭でシートベルトの実施状況確認及びチラシによる着用推進啓発
農作業安全についての啓発アンケート実施（シートベルト以外）

※配布チラシは P.64 参照

会場風景



下 2 枚：福岡県農業機械士会の安全啓発コーナー

(2) 取組みの効果

本取組みの前後での装着率実態調査は次のとおりである

実地調査による装着率の変化（福岡県）

		シートベルト			
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計
		作業中	走行中	休憩中等	
1回目	装着	4	0	0	4 (6.8%)
6/3 ~	非装着	39	9	0	48 (81.4%)
9/21	装備なし	5	2	0	7 (11.9%)
	合計	48	11	0	59 (100.0%)
2回目	装着	3	3	2	8 (13.6%) +6.8%
7/17 ~	非装着	39	6	3	48 (81.3%)
10/27	装備なし	1	0	2	3 (5.1%)
	合計	43	9	7	59 (100.0%)
3回目	装着	2	0	1	3 (4.5%) -9.1%
10/10 ~	非装着	46	10	4	60 (89.5%)
12/14	装備なし	0	1	3	4 (6.0%)
	合計	48	11	8	67 (100.0%)

		ヘルメット			
		ほ 場	道 路	そ の 他	合 計
		作業中	走行中	休憩中等	
1回目	装着	0	1	0	1 (1.7%)
6/3 ~	非装着	48	10	0	58 (98.3%)
9/21	合計	48	11	0	59 (100.0%)
2回目	装着	0	0	1	1 (1.7%) +0.0%
7/17 ~	非装着	43	9	5	57 (98.3%)
10/27	合計	43	9	6	58 (100.0%)
3回目	装着	0	1	0	1 (1.4%) -0.3%
10/10 ~	非装着	50	10	9	69 (98.6%)
12/14	合計	50	11	9	70 (100.0%)

本件では県全体を対象としたJAによる展示会での農作業安全啓発活動を取組みとして取り上げた。当該JAフェアの来場者は、概ね県からまんべんなく集まっていた。ただし農業機械士会の安全啓発ブースに立ち寄った方は、その場で実施したアンケート回答者数とすると全来場者の5%にとどまっている。アンケート回答はせずチラシだけ受け取った者、話だけは聞いた者を加えるとこれよりかなり多いのかも知れないが、このようなイベントにおける取組みでは、一般的な結果といえよう。

このため、残念ながらシートベルト・ヘルメットともイベント効果により装着率が向上したとのデータにはなっていない。なお、シートベルトの2回目のみは向上をみせているが、3回目の落ち込みから見ても誤差の範囲と思われる。

7. 各県取組みの概括

これら各県の取組みの結果を、装着率向上との観点から概括すると以下のとおり。様々な啓発取組みを同一の評価軸で比較することは出来ず、また観察による調査客体も必ずしも属性が一樣とはいえないため、単純に優劣をいうのは適当でない一方、結果として県別にある程度の傾向の違いも出たところである。2～6の県別記述中、装着率の表の右端に太字で事前・事後の変化を示しており、この数字の変化について検証した。

(1) シートベルト

調査2・3回目の装着率アップが比較的大きく現れた県（千葉 28.9%、富山 43.0%等、京都 20.6%）と、そうでもない県（栃木 3.4%、福岡 6.8%）に2分される。これはP.3の表にあるとおり、現場での第1回目調査の際等に現場での個別声かけを行ったところと、それ以外の啓発によるところに区分されるものであり、やはり人が直接現場で声をかける取組みが効果的であるといえよう。

(2) ヘルメット

ヘルメットに関しては、2・3回目の装着率アップがみられたといえるのは富山県（25.2%等）のみといえ、その他の県は微増・横ばい・マイナス（+4.9%～▲3.7%）にとどまっており、残念ながら取組みにあまり効果があったとはいえないであろう。なお、富山県にアップがみられた理由は既述のとおり。

8. 全体集計

これまで述べたように、県毎に取組み内容が異なり、調査時期等も様々であるので単純に全体を集計することの意味はよく吟味すべきかも知れないが、一方では延べ513台という多数のトラクターの状況を観察したという貴重なデータであり、また、シートベルト・ヘルメット装着有無のみならず、例えば性別や推定年齢なども報告してもらっているので、全県を集計する形でこれらのデータを整理してみた。

以下、実地調査の1回目は単独、2・3回目は両者合わせた集計表と、さらにこれらの総合計（1～3回目合計）の集計表を掲載している。ただし、前述のとおり富山県のデータは他県と同列に比較できないとも考えられることから、基本的には同県を除いて集計したデータを掲載し、総合計のみ同県を含むものも併せて掲載した。

1) シートベルトの装着状況

(1) 確認時の状況別シートベルトの装着状況 (1回目)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	5	4.1%	1	2.9%	1	9.1%	7	4.2%
非装着	106	87.6%	31	88.6%	10	90.9%	147	88.0%
装備なし	10	8.3%	3	8.6%	0	0.0%	13	7.8%
計	121	100.0%	35	100.0%	11	100.0%	167	100.0%

(1) 確認時の状況別シートベルトの装着状況 (2・3回目)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	16	9.6%	7	17.5%	10	20.0%	33	12.9%
非装着	147	88.6%	32	80.0%	35	70.0%	214	83.6%
装備なし	3	1.8%	1	2.5%	5	10.0%	9	3.5%
計	166	100.0%	40	100.0%	50	100.0%	256	100.0%

(1) 確認時の状況別シートベルトの装着状況 (1～3回目合計)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	21	7.3%	8	10.7%	11	18.0%	40	9.5%
非装着	253	88.2%	63	84.0%	45	73.8%	361	85.3%
装備なし	13	4.5%	4	5.3%	5	8.2%	22	5.2%
計	287	100.0%	75	100.0%	61	100.0%	423	100.0%

(1) 確認時の状況別シートベルトの装着状況 (1～3回目合計：富山含む)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	59	17.6%	9	11.5%	31	33.7%	99	19.6%
非装着	263	78.5%	65	83.3%	56	60.9%	384	76.0%
装備なし	13	3.9%	4	5.1%	5	5.4%	22	4.4%
計	335	100.0%	78	100.0%	92	100.0%	505	100.0%

装着率の総合計(1～3回目合計)は9.5%と1割以下であり決して高いとはいえない一方、現場の実感からすると想像していたよりは健闘しているとも考えられる。作業時・道路走行時等での装着率の違いについては、調査によって若干跛行的傾向を示してはいるが、概ね道路走行時の方が若干高くなっている。なお、その他休憩中等とは、実地調査時に休憩している農業者に出会った場合などには聞き取りにより装着状況を把握することとし、その結果の数字である。これが高めに突出しているのは聞き取りの限界を示しているといえるのかも知れない。なお富山を含む装着率は、特に作業時が高くなっている。同県で強力な装着の指導をしながら調査を行った結果といえる。

(2) 安全キャブ・フレーム装備状況別シートベルトの装着状況（1回目）

	安全キャブ・フレーム						計	
	キャビン 装備		安全フレー ム装備		いずれも なし			
装着	4	3.8%	3	6.0%	0	0.0%	7	4.3%
非装着	98	94.2%	42	84.0%	4	40.0%	144	87.8%
装備なし	2	1.9%	5	10.0%	6	60.0%	13	7.9%
計	104	100.0%	50	100.0%	10	100.0%	164	100.0%

(2) 安全キャブ・フレーム装備状況別シートベルトの装着状況（2・3回目）

	安全キャブ・フレーム						計	
	キャビン 装備		安全フレー ム装備		いずれも なし			
装着	27	13.7%	4	8.7%	0	0.0%	31	12.3%
非装着	168	85.3%	37	80.4%	7	77.8%	212	84.1%
装備なし	2	1.0%	5	10.9%	2	22.2%	9	3.6%
計	197	100.0%	46	100.0%	9	100.0%	252	100.0%

(2) 安全キャブ・フレーム装備状況別シートベルトの装着状況（1～3回目合計）

	安全キャブ・フレーム						計	
	キャビン 装備		安全フレー ム装備		いずれも なし			
装着	31	10.3%	7	7.3%	0	0.0%	38	9.1%
非装着	266	88.4%	79	82.3%	11	57.9%	356	85.6%
装備なし	4	1.3%	10	10.4%	8	42.1%	22	5.3%
計	301	100.0%	96	100.0%	19	100.0%	416	100.0%

(2) 安全キャブ・フレーム装備状況別シートベルトの装着状況（1～3回目合計：富山含む）

	安全キャブ・フレーム						計	
	キャビン 装備		安全フレー ム装備		いずれも なし			
装着	80	21.7%	15	13.9%	0	0.0%	95	19.2%
非装着	285	77.2%	83	76.9%	11	57.9%	379	76.4%
装備なし	4	1.1%	10	9.3%	8	42.1%	22	4.4%
計	369	100.0%	108	100.0%	19	100.0%	496	100.0%

本表は、キャビンかフレームかの違いが装着率にどう影響するかをみたものであるが、総合計でみるとキャビンの方が高くなっている。どちらも装着すべきであるが、転倒時の投げ出されを防ぐためなど、フレームの方がより必要性が高いのに対し逆の結果となってしまっている。農業法人等で安全対策がより進んでいるところでは、トラクターも大型・キャビン装備のものが多いためとも考えられるが、特にフレームのトラクター使用者により強力に啓発すべきとの結果になった。ただし、トラクターのキャビン・フレームの割合は概ね3対1であった。なお、5%以下ではあるが、キャビン・フレームいずれもないトラクターも観察されている。

(3) 性別シートベルトの装着状況 (1回目)

	性別						計	
	男性		女性		不明			
装着	7	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.2%
非装着	144	87.8%	1	100.0%	1	100.0%	146	88.0%
装備なし	13	7.9%	0	0.0%	0	0.0%	13	7.8%
計	164	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	166	100.0%

(3) 性別シートベルトの装着状況 (2・3回目)

	性別						計	
	男性		女性		不明			
装着	28	11.6%	2	50.0%	0	—	30	12.2%
非装着	205	84.7%	2	50.0%	0	—	207	84.1%
装備なし	9	3.7%	0	0.0%	0	—	9	3.7%
計	242	100.0%	4	100.0%	0	—	246	100.0%

(3) 性別シートベルトの装着状況 (1～3回目合計)

	性別						計	
	男性		女性		不明			
装着	35	8.6%	2	40.0%	0	—	37	9.0%
非装着	349	86.0%	3	60.0%	1	—	353	85.7%
装備なし	22	5.4%	0	0.0%	0	—	22	5.3%
計	406	100.0%	5	100.0%	1	—	412	100.0%

(3) 性別シートベルトの装着状況 (1～3回目合計：富山含む)

	性別						計	
	男性		女性		不明			
装着	86	18.0%	10	66.7%	0	—	96	19.4%
非装着	370	77.4%	5	33.3%	1	—	376	76.1%
装備なし	22	4.6%	0	0.0%	0	—	22	4.5%
計	478	100.0%	15	100.0%	1	—	494	100.0%

性別に関しては、どのデータをみてもそもそも女性が極めて少数で、これをもって何かを論じるのは基本的には難しいと思われる。

ただし富山を含む総合計では、女性の装着率が極めて高く出ており、女性の方が男性より規則等をきちんと履行する傾向があるといえるかも知れない。

(4) 年齢別シートベルトの装着状況 (1回目)

	年齢										計	
	40歳未満		40歳～60歳未満		60歳～80歳未満		80歳以上		不明			
装着	1	8.3%	4	8.3%	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.2%
非装着	11	91.7%	43	89.6%	86	86.0%	4	100.0%	3	100.0%	147	88.0%
装備なし	0	0.0%	1	2.1%	12	12.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	7.8%
計	12	100.0%	48	100.0%	100	100.0%	4	100.0%	3	100.0%	167	100.0%

(4) 年齢別シートベルトの装着状況 (2・3回目)

	年齢										計	
	40歳未満		40歳～60歳未満		60歳～80歳未満		80歳以上		不明			
装着	3	18.8%	9	11.3%	19	13.1%	0	0.0%	0	—	31	12.5%
非装着	13	81.3%	67	83.8%	121	83.4%	7	100.0%	0	—	208	83.9%
装備なし	0	0.0%	4	5.0%	5	3.4%	0	0.0%	0	—	9	3.6%
計	16	100.0%	80	100.0%	145	100.0%	7	100.0%	0	—	248	100.0%

(4) 年齢別シートベルトの装着状況 (1～3回目合計)

	年齢										計	
	40歳未満		40歳～60歳未満		60歳～80歳未満		80歳以上		不明			
装着	4	14.3%	13	10.2%	21	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	38	9.2%
非装着	24	85.7%	110	85.9%	207	84.5%	11	100.0%	3	100.0%	355	85.5%
装備なし	0	0.0%	5	3.9%	17	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	22	5.3%
計	28	100.0%	128	100.0%	245	100.0%	11	100.0%	3	100.0%	415	100.0%

(4) 年齢別シートベルトの装着状況 (1～3回目合計：富山含む)

	年齢										計	
	40歳未満		40歳～60歳未満		60歳～80歳未満		80歳以上		不明			
装着	20	41.7%	31	20.0%	43	15.6%	1	7.1%	0	—	95	19.2%
非装着	28	58.3%	119	76.8%	215	78.2%	13	92.9%	3	—	378	76.4%
装備なし	0	0.0%	5	3.2%	17	6.2%	0	0.0%	0	—	22	4.4%
計	48	100.0%	155	100.0%	275	100.0%	14	100.0%	3	—	495	100.0%

年齢別にみていくと、どのデータをみても若い方が装着率が高くなっている。もちろんどの年代の方も装着すべきであるが、若い人の方が従来のやり方にとらわれず、シートベルトの啓発等を吸収していただいた結果だといえるかも知れない。

ただし当然ながら40歳未満の調査客体の絶対数は少なく、年代のピークは60歳～80歳となっている。

2) ヘルメットの装着状況

(1) 確認時の状況別ヘルメットの装着状況 (1回目)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	1	0.8%	2	5.7%	0	0.0%	3	1.8%
非装着	118	99.2%	33	94.3%	11	100.0%	162	98.2%
計	119	100.0%	35	100.0%	11	100.0%	165	100.0%

(1) 確認時の状況別ヘルメットの装着状況 (2・3回目)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	3	1.8%	1	2.3%	2	4.0%	6	2.3%
非装着	162	98.2%	42	97.7%	48	96.0%	252	97.7%
計	165	100.0%	43	100.0%	50	100.0%	258	100.0%

(1) 確認時の状況別ヘルメットの装着状況 (1～3回目合計)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	4	1.4%	3	3.8%	2	3.3%	9	2.1%
非装着	280	98.6%	75	96.2%	59	96.7%	414	97.9%
計	284	100.0%	78	100.0%	61	100.0%	423	100.0%

(1) 確認時の状況別ヘルメットの装着状況 (1～3回目合計：富山含む)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	39	11.7%	4	4.9%	12	13.0%	55	10.9%
非装着	293	88.3%	77	95.1%	80	87.0%	450	89.1%
計	332	100.0%	81	100.0%	92	100.0%	505	100.0%

ヘルメットに関しては、残念ながら全体の装着率で2%程度であり、傾向等を分析してもあまり意味のあるものになるとは思えない。ただし富山を加えると装着率は10%以上と大きくアップする。特に後者が「ほ場作業中」で高くなっているのは、ヘルメット装着を促進している法人等が調査客体であったことが大きいと思われる。

なお、上記前段の理由から、ヘルメットに関しては次ページ以降、総合計(1～3回目合計)のみ表を掲載する。

(1) 確認時の状況別ヘルメットの装着状況 (1～3回目合計) (再掲)

	確認時の状況						計	
	ほ場作業中		道路走行中		その他 休憩中等			
装着	4	1.4%	3	3.8%	2	3.3%	9	2.1%
非装着	280	98.6%	75	96.2%	59	96.7%	414	97.9%
計	284	100.0%	78	100.0%	61	100.0%	423	100.0%

(2) 安全キャブ・フレーム装備状況別ヘルメットの装着状況 (1～3回目合計)

	安全キャブ・フレーム						計	
	キャビン 装備		安全フレー ム装備		いずれも なし			
装着	7	2.3%	2	2.0%	0	0.0%	9	2.1%
非装着	298	97.7%	96	98.0%	19	100.0%	413	97.9%
計	305	100.0%	98	100.0%	19	100.0%	422	100.0%

(3) 性別ヘルメットの装着状況 (1～3回目合計)

	性別						計	
	男性		女性		不明			
装着	9	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	9	2.2%
非装着	398	97.8%	5	100.0%	1	100.0%	404	97.8%
計	407	100.0%	5	100.0%	1	100.0%	413	100.0%

(4) 年齢別ヘルメットの装着状況 (1～3回目合計)

	年齢										計	
	40歳未満		40歳～ 60歳未満		60歳～ 80歳未満		80歳以上		不明			
装着	3	10.0%	0	0.0%	5	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	1.9%
非装着	27	90.0%	126	100.0%	242	98.0%	11	100.0%	2	100.0%	408	98.1%
計	30	100.0%	126	100.0%	247	100.0%	11	100.0%	2	100.0%	416	100.0%

前述のように、いずれのデータも装着者の数が少なすぎることから傾向を分析するまでに至らないが、敢えていえば、(2)の安全キャブと安全フレームの別は特に違いはみられない、(3)の性別は女性は0%であった、(4)の年齢別は40歳未満が装着率が高かった等である。

Ⅱ. 研修実施の効果検証

1. 実施力所、日程等

本取組みは概要下表のとおり 6 道県でのべ 10 回の研修を実施し、その効果検証はアンケート調査により行った。ただし一般的なアンケートでは研修終了時のみに限るのに対し、本取組みではなるべく研修開始時に行うとともに、終了後 1 ヶ月程度の期間において郵送等による再度のアンケートを実施した。これは、終了時 1 回のみでは実際の乗車時にシートベルト装着が行われたかどうか分からないため、その後の本人のトラクター運転機会において装着したかどうかなどを問い合わせたものである。観察ではなくアンケートであり、そのことの限界はあるが、一方では観察よりもより詳しく本人の取組み状況や、安全に関する意識などを聞くことが出来るとのメリットもある。

県名	研修名	実施主体	研 修 実施日	アンケート有効回答数		
				実施時	事後	計
岡山	倉敷河上農機大商談会 農作業安全研修	倉敷河上農機(株) [農機販売会社]	5.7.21・22	44	22	66
福岡	全農福岡 大特免許講習会	全農福岡 [J A 系統]	5.10.26 ~ 12.1 (4 回)	39	32	71
北海道	オホーツク地区農作業安全・ 労務管理・応急救護研修会	ホクレン [J A 系統]	5.11.29	13	8	21
茨城	ヤンマーアグリフェア In 茨城	ヤンマーアグリ ジャパン(株) [農機販売会社]	5.11.21・22	45	31	76
新潟	ヤンマーアグリフェア In 長岡	同 上 [農機販売会社]	5.11.28・29	42	31	73
北海道	J A きたみらい青年部・ 女性部・フレッシュミズ 合同意見交換会	J A きたみらい 青年部等 [J A 系統]	5.12.18	23	23	46
群馬	館林市認定農業者協議会 ・農業委員会・農業青年会 議共催農作業安全講習会	館林市認定農業 者協議会等 [自治体]	6.2.6	34	25	59
合 計				240	172	412

以下、個別の研修概要とアンケート結果について記述する。

2. 岡山県 倉敷河上農機大商談会 農作業安全研修 (5.7.21・22)

同社は、倉敷市に本社をもつ(株)クボタ系列の農機販売会社(従業員50名強)である。同社では例年、展示会場を用いて販売促進のイベントを開催しており、本年度はそのイベントのなかで「農作業安全研修会」が開催された。当該研修会について本事業と連携させていただき、トラクターのシートベルト装着を強調したものとするとともに、来場者をアンケートの対象としたものである。

【農作業安全研修概要】

1日2回×2日 都合4回 各45分間

展示会場の一角にスクリーンを置き、椅子を並べて実施

このほか、トラクター転倒の体験設備を設置

来場者：管内農業者 各回十数名(アンケート回答者44名 うち2回目回答者21名)

講師：(株)中四国クボタ、日本農業機械化協会

研修資料：当協会によるシートベルト装着促進を内容としたものは、P.77 参照。

クボタ 農業応援!
For Earth, For Life
大商談会 2023
"来て!見て! 得する情報満載"

ご来場記念品プレゼント
いつでも
メモ帳代わりに
電子メモパッド
(8.5インチ)
ご来場の
一客様様1個限り

とき **7/21(金)・22(土)**
9時~16時 9時~15時

ところ **岡山県総合展示場コンベックス岡山**
中展示会場
岡山市北区大内田675番地

お問い合わせは
倉敷河上農機株式会社
〒710-0834 岡山県倉敷市笹沖1080番地
詳しくは、**最寄りの営業所へ**お問い合わせ下さい

後援:株式会社クボタ・株式会社 中四国クボタ 協賛:出展メーカー各社

ご入場いただくお客様へ
ご協力をお願い
●会場内で人との距離(約2m)が保てず会話をすることはマスク着用にご協力をお願いします。
●状況により、当日スケジュールの変更や、開催自体を中止させていただく場合がございます。

**この機会をお見逃しなく!!
お得満載!! お楽しみに!!**

耕うん爪 特別価格 予約受付!
オイル 特別価格 予約受付!

※展示会開催日2日間のみ有効です。
※納期に日数を要する場合がございます。

イベント
農作業安全研修会
午前 10:00~10:45 午後 13:00~13:45
スマート農業講習会
午前 11:00~11:45 午後 14:00~14:45

※可能な方は時間をすらすらとお越しください。
お客様への丁寧な対応、安心安全な空間づくりをこころがけています。

皆様のご来場をスタッフ一同心よりお待ちしております。



研修風景



来場者にアンケート依頼



転倒体験装置



展示会場風景

【アンケート結果 1 回目：研修受講時】

1. 回答者の概要

(1) 性別及び年齢

	男	女
30歳未満	2	
30～40歳未満		
40～50歳未満	1	
50～60歳未満	2	
60～70歳未満	6	
70～80歳未満	12	
80歳以上	8	
計	31	

※無回答13名

(2) 経営面積

	田	普通畑	飼料畑	樹園地	その他	総経営面積
1h未満	20	15			1	18
1h～3h未満	8					11
3h～5h未満	2					2
5h～10h未満						
10h以上	1					1
計	31	15			1	32

※無回答12名

2. 所有するトラクターの状況

(1) エンジンの馬力

馬力	回答数
10～19PS	9
20～29PS	17
30～39PS	9
40～49PS	
50PS以上	2
計	37

※無回答7名

(2) 安全装備の状況

装備	ベルトあり	ベルトなし	ベルト不明	計
キャビン	10	1		11
フレーム	22	1	1	24
なし		6	1	7
計	32	8	2	42

※無回答2名

3. シートベルト装着状況

(1) シートベルト装着状況 (()内は構成比(%))

	①一度もない	②ほとんどない	③たまに締める	④いつも締める	計	無回答
道路上	24 (60.0)	8 (20.0)	4 (10.0)	4 (10.0)	40 (100.0)	4
ほ場作業時	20 (51.3)	12 (30.8)	4 (10.3)	3 (7.7)	39 (100.0)	5
計	44 (55.7)	20 (25.3)	8 (10.1)	7 (8.9)	79 (100.0)	9

(2) シートベルトを締めない理由 ((1)の①、②の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①トラクターは速度が遅いので必要ない。	11	34.4%
②自分は十分気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	5	15.6%
③ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	19	59.4%
④周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	6	18.8%
⑤特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	12	37.5%
⑥締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	16	50.0%
⑦取り締まられたことがないので、締める必要はない。	5	15.6%
⑧果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない。	1	3.1%
⑨ベルトがどこにあるかわからない。	1	3.1%
⑩その他	2	6.3%
計	78	-

(3) シートベルトを締める理由 ((1)の③、④の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から必要性を理解しており締める習慣がついている。	2	26.7%
②事故や危険(ヒヤリハット)の体験をして、その後は締めるようになっている。	3	40.0%
③取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった。	2	26.7%
④部品としてついているものなので、締めたほうがいいのだろうと思った。	1	13.3%
⑤安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた。	1	13.3%
⑥家族や知人などからすすめられた。	1	13.3%
⑦所属している組織で締める決まりとなっている。		0.0%
⑧取り締まりにあういやなので、特に路上では締めている。	2	26.7%
⑨その他	1	13.3%
計	13	-

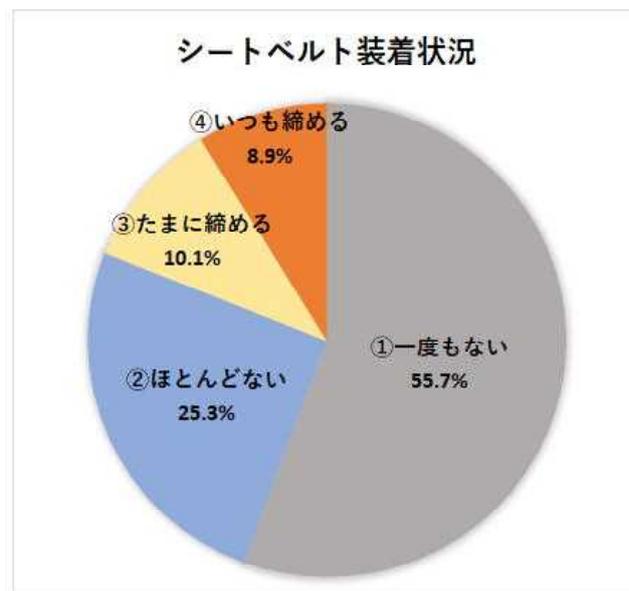
※3 (2) (3) の回答割合欄は、設問が道路上とほ場作業時を区分していないので、概算での割合である(以下Ⅱ内で同じ)

受講者は比較的経営面積の小さい方が多く、また全員が水田作をし、高齢者の多い中国地方では典型的な農家層であったとみられる。

所有トラクターも当然、小馬力でフレーム仕様が多かった。なお、「ベルトなし」のトラクターを所有との回答も比較的多い。

ベルト装着率は「いつも締める」との回答は1割以下だが、「たまに」を合わせると2割に達する（「たまに」と回答された方の頻度は不分明である。）

締めない理由は「乗り降りが多い」「面倒くさい」が多いが、「必要ない」「考えたことがない」との回答も一定数あった。なお、締める方の理由で、実際には法的義務はないものの「取り締まり」との回答が2名あり興味深い（次項以降同じ）。



【アンケート結果2回目：受講後概ね3ヵ月後】

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比(%)
装着することが増えた	5	23.8
特に変わらない	15	71.4
その他	1	4.8
計	21	100.0

2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況(()内は構成比(%))

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
ほ場作業時	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
計	2 (25.0)	2 (25.0)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)

3. 装着することが増えた理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①研修受講で有効性がよく分かった。	4	80.0%
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	3	60.0%
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	4	80.0%
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	0	0.0%
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	0	0.0%
⑥その他	1	20.0%
計	12	—

4. 装着状況が特に変わらなかった理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から締めていたので変わらない。	3	20.0%
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	1	6.7%
③自分は気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	4	26.7%
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めてられない。	7	46.7%
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	6	40.0%
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	7	46.7%
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	7	46.7%
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	0	0.0%
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	0	0.0%
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	1	6.7%
⑪その他	2	13.3%
計	38	—

5. 研修で得た情報の伝達

選択肢	回答数	回答割合(%)
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	3	14.3%
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	5	23.8%
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	4	19.0%
④特に話はしていない。	7	33.3%
⑤その他	2	9.5%
計	21	100.0%

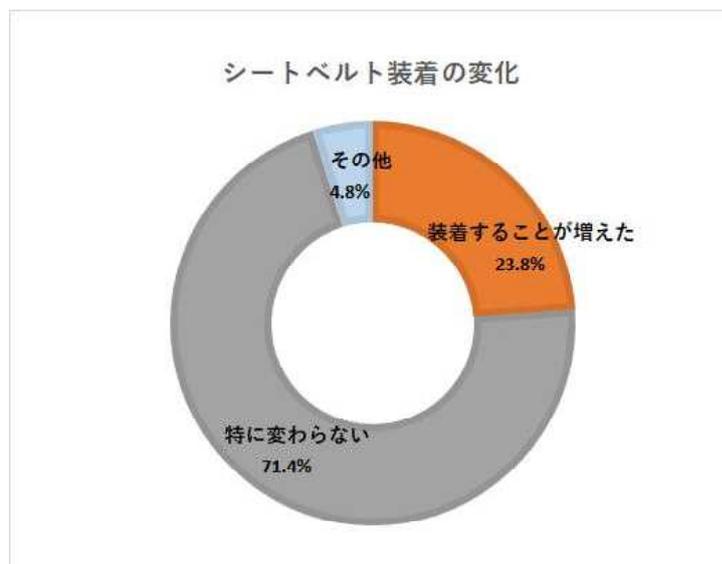
1回目の受講者数44名に対して郵送による2回目のアンケートにお答えいただいたのが21名と約半数であった。

そこで「装着することが増えた」との回答が23.8%と、約1/4であり、これをどうみるかであるが、展示会場における比較的短時間の研修結果としては意味があったといえるのではないか。

締めるのが増えたという方の理由としては、研修でシートベルト装着の有効性等を聞いたことが直接その結果につながったと考えられる。

一方、受講後も以前と変わらず締めないという方の理由としては、1回目と概ね同様「乗り降りが多い」「やはり面倒」などが多いが、「周りで締めている人はいない」との回答割合も高く、地域である程度締める方が増えればそれが周囲に伝搬していくものであろうと考えられる。

なお、当該研修で得られた情報の周囲への伝達も一定程度は行われている。



3. 全農福岡 大特免許講習会

J A全農福岡県本部において実施されている、組合員を対象とした大型特殊免許取得のための講習会において、受講者にシートベルト装着の啓発活動が実施された。都合4回の講習でのアンケート回答者数は以下のとおりである。

講習会 開催日	10.26	11.2	11.17	12.1	合計
1回目アンケート	11	12	9	7	39
2回目アンケート	10	8	7	7	32

また、当該啓発活動で用いられた資料は P.78 参照。

【アンケート結果 1 回目：講習受講時】

1. 回答者の概要

(1) 性別及び年齢

	男	女
30歳未満	1	
30～40歳未満	5	
40～50歳未満	7	
50～60歳未満	6	
60～70歳未満	12	1
70～80歳未満	5	
80歳以上	2	
計	38	1

※無回答1名

(2) 経営面積

	田	普通畑・樹園地	飼料畑	その他	総経営面積
1h未満	10	3		1	8
1h～3h未満	13	1			13
3h～5h未満	1				1
5h～10h未満	3				3
10h以上	1				
計	28	4		1	25

※無回答7名

2. 所有するトラクターの状況

(1) エンジンの馬力

馬力	回答数
20未満	3
20～29PS	24
30～49PS	8
50～99PS	1
100PS以上	
計	36

※複数回答

(2) 安全装備の状況

装備	ベルトあり	ベルトなし	ベルト不明	計
キャビン	14			14
フレーム	17	1		18
なし	3	4		7
計	34	5		39

3. シートベルト装着状況

(1) シートベルト装着状況 (()内は構成比(%))

	①一度もない	②たまに締める	③だいたい締める	④その他	計	無回答
道路上	22 (57.9)	2 (5.3)	12 (31.6)	2 (5.3)	38 (100.0)	0
ほ場作業時	26 (68.4)	3 (7.9)	8 (21.1)	1 (2.6)	38 (100.0)	0
計	48 (63.2)	5 (6.6)	20 (26.3)	3 (3.9)	76 (100.0)	0

(2)シートベルトを締めない理由((1)の①、②の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①トラクタは速度が遅いので必要ない。	5	18.9%
②自分は十分気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	2	7.5%
③ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	12	45.3%
④周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	6	22.6%
⑤特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	10	37.7%
⑥締めた方がいいのかなと思うが、やはり面倒くさい。	13	49.1%
⑦取り締まられたことがないので、締める必要はない。		0.0%
⑧果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない。		0.0%
⑨ベルトがどこにあるかわからない。	3	11.3%
⑩その他	1	3.8%
計	52	-

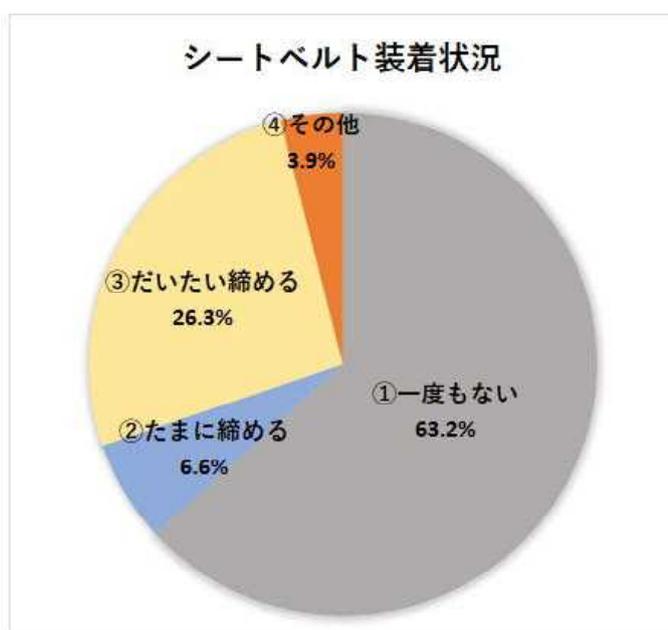
(3)シートベルトを締める理由((1)の③、④の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から必要性を理解しており締める習慣がついている。	7	60.9%
②事故や危険(ヒヤリハット)の体験をして、その後は締めるようにしている。	1	8.7%
③取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった。	1	8.7%
④部品としてついているものなので、締めたほうがいいのだろうと思った。	1	8.7%
⑤安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた。	4	34.8%
⑥家族や知人などからすすめられた。	2	17.4%
⑦所属している組織で締める決まりとなっている。	2	17.4%
⑧取り締まりにあうといやなので、特に路上では締めている。	6	52.2%
⑨その他	1	8.7%
計	25	-

本啓発活動の対象者は、大特免許講習受講者であることから、一般的な農業者の調査よりは比較的若年層が多いといえる。

経営面積やトラクターの大きさは平均的なところであるが、ベルト装着状況は「だいたい締める」が26.3%と、他の調査と比べても高くなっている。若年層が多いことと関係しているとも考えられる。

締めない理由としては「面倒くさい」「乗り降りが多く」が多く、他事例とほぼ共通であるが、締める理由としては「締める習慣がついている」との回答が多くなっている。一方、「取り締まりにあうといや」との回答も他事例に比してかなり多く、このような情報が地域で伝達されているのかも知れない。



【アンケート結果2回目：受講後概ね1ヵ月後】

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比(%)
装着することが増えた	10	31.3
特に変わらない	14	43.8
その他	8	25.0
計	32	100.0

2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況(()内は構成比(%))

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	0 (0.0)	1 (11.1)	8 (88.9)	0 (0.0)	9 (100.0)
ほ場作業時	4 (44.4)	1 (11.1)	4 (44.4)	0 (0.0)	9 (100.0)
計	4 (22.2)	2 (11.1)	12 (66.7)	0 (0.0)	18 (100.0)

3. 装着することが増えた理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①研修受講で有効性がよく分かった。	6	60.0%
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	2	20.0%
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	5	50.0%
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	1	10.0%
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	0	0.0%
⑥その他	2	20.0%
計	16	—

4. 装着状況が特に変わらなかった理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から締めていたので変わらない。	3	21.4%
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	1	7.1%
③自分は気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	0	0.0%
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	4	28.6%
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	0	0.0%
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	5	35.7%
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	6	42.9%
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	1	7.1%
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	0	0.0%
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	0	0.0%
⑪その他	2	14.3%
計	22	—

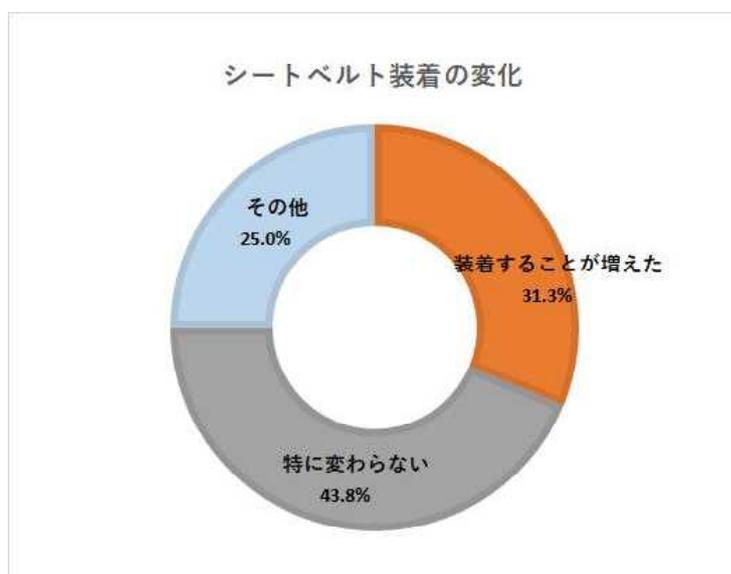
5. 研修で得た情報の伝達

選択肢	回答数	回答割合(%)
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	1	3.1%
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	5	15.6%
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	3	9.4%
④特に話はしていない。	19	59.4%
⑤その他	1	3.1%
計	29	90.6%

29 ページに示したように、2 回目のアンケートにお答えいただいた方の割合は 32 人 / 39 人で、8 割以上と高かった。

「装着することが増えた」とお答えいただいたのは 3 割強であるが、本事例ではもとの装着率が高かったことを考えると優秀な結果といえる。増えた理由も「研修受講で有効性が分かった」が多く、受講者が普段にも増して真剣になる免許取得講習時の啓発は有効と考えられる。

なお、締めることが増えたとの回答のなかで、「道路上」ではだいたい / いつも締められている一方、「ほ場作業時」は半数程度にとどまっていた。道路上だけでも締めないよりは締めた方が好ましいが、1 回目アンケートで「取り締まり」云々との回答が多かったことと関係があるとも想定される。



4. ヤンマーアグリフェアIn茨城／In長岡

ヤンマーアグリ（株）系列の販売組織が開催した、本年度の農機販売促進のイベントのうち茨城県で行われたものと新潟県で行われたものの2カ所において、来場者を対象にシートベルト装着促進の啓発活動が行われた。トラクタ傾斜角体験装置を用いて転落転倒の恐ろしさや傾斜の感覚を体験してもらい、シートベルト・ヘルメットの重要性をPRするものであるが、当該体験にご参加された方にアンケートを依頼した。ご回答いただいた方の数は以下のとおりである。どちらも来場者総数は約2,000名であった。

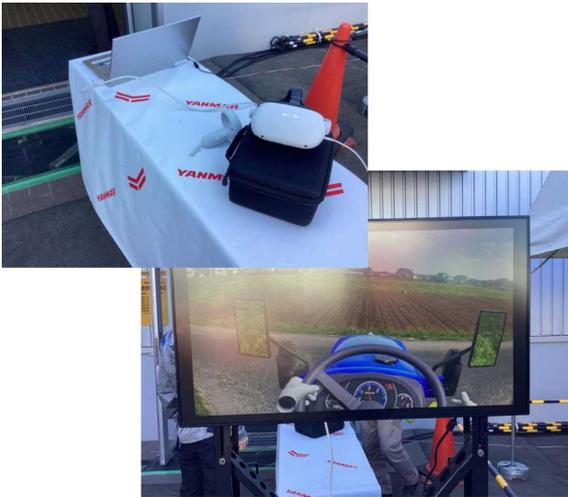
フェア 開催日	茨城 11.21 ~ 22	長岡 11.28 ~ 29	合計
1回目アンケート	47	42	89
2回目アンケート	31	31	62



安全啓発ポスター（茨城）



傾斜角体験（茨城）



VRによる事故体験（茨城）



傾斜角体験（長岡）



会場風景（長岡）

【アンケート結果 1 回目：フェア開催時】

1. 回答者の概要

(1) 性別及び年齢

	男	女
30歳未満	9	
30～40歳未満	17	2
40～50歳未満	12	2
50～60歳未満	9	1
60～70歳未満	25	
70～80歳未満	6	
80歳以上	2	
計	80	5

※無回答3名

(2) 経営面積

	田	普通畑・樹園地	飼料畑	その他	総経営面積
1h未満	4	7		1	5
1h～3h未満	8	5			7
3h～5h未満	11	7			9
5h～10h未満	12	1			17
10h以上	38	3		1	40
計	73	23		2	78

※無回答11名

2. 所有するトラクターの状況

(1) エンジンの馬力

馬力	回答数
20未満	6
20～29PS	24
30～49PS	48
50～99PS	60
100PS以上	8
計	146

※複数回答

(2) 安全装備の状況

装備	ベルトあり	ベルトなし	ベルト不明	計
キャビン	116			116
フレーム	18	3	1	22
なし	1	6		7
計	135	9	1	145

3. シートベルト装着状況

(1) シートベルト装着状況 (()内は構成比(%))

	①一度もない	②たまに締める	③だいたい締める	④その他	計	無回答
道路上	70 (80.5)	6 (6.9)	11 (12.6)	0 (0.0)	87 (100.0)	0
ほ場作業時	74 (85.1)	7 (8.0)	6 (6.9)	0 (0.0)	87 (100.0)	0
計	144 (82.8)	13 (7.5)	17 (9.8)	0 (0.0)	174 (100.0)	0

(2) シートベルトを締めない理由 ((1)の①、②の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①トラクターは速度が遅いので必要ない。	20	25.5%
②自分は十分気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	10	12.7%
③ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	39	49.7%
④周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	9	11.5%
⑤特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	27	34.4%
⑥締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	43	54.8%
⑦取り締まられたことがないので、締める必要はない。	11	14.0%
⑧果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない。	2	2.5%
⑨ベルトがどこにあるかわからない。	2	2.5%
⑩その他	6	7.6%
計	169	-

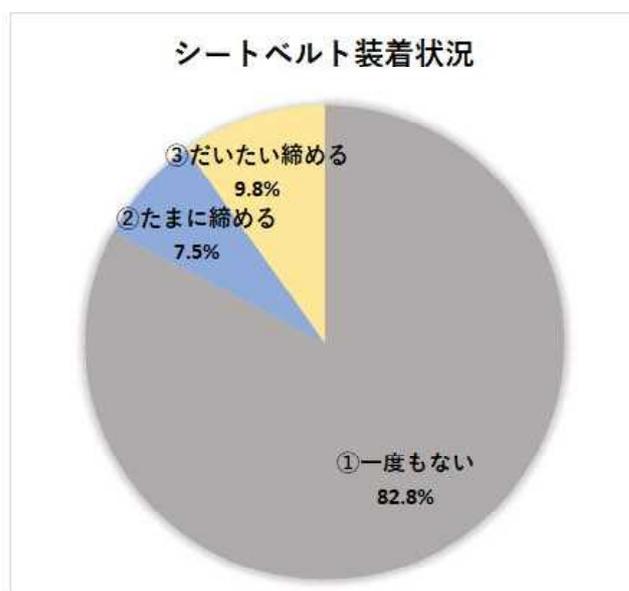
(3) シートベルトを締める理由 ((1)の③、④の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から必要性を理解しており締める習慣がついている。	8	94.1%
②事故や危険(ヒヤリハット)の体験をして、その後は締めるようになっている。	4	47.1%
③取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった。		0.0%
④部品としてついているものなので、締めたほうがいいのかと思う。		0.0%
⑤安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた。	1	11.8%
⑥家族や知人などからすすめられた。		0.0%
⑦所属している組織で締める決まりとなっている。		0.0%
⑧取り締まりにあうといやなので、特に路上では締めている。	2	23.5%
⑨その他		0.0%
計	15	-

これら2回のイベント内容、啓発活動内容はほぼ同一であることから、集計は両者を合わせて行った。

対象者は(1)のとおり各年齢層にまたがっており、農業者の平均よりは比較的若い層が多い。経営規模・所有トラクターについてはいずれも大きい層が多く、このため9割近くはキャビン仕様である。

シートベルト装着割合は「だいたい締める」が1割、「たまに」を合わせると2割近くとなる。このように大規模層が多くても締めない理由は他事例と似通っており、「面倒くさい」「乗り降りが多い」が多い。一方、締めている方の回答はほとんどの方が「締める習慣がついている」と回答しており、規模からいって法人等が多く、規則づけられているのが理由かも知れない。ついで、「ヒヤリハットの体験」との回答も半分近くあった。



【アンケート結果2回目：啓発後概ね1ヵ月後】

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比(%)
装着することが増えた	21	33.9
特に変わらない	40	64.5
その他	1	1.6
計	62	100.0

2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況()内は構成比(%)

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	0 (0.0)	7 (31.8)	15 (68.2)	0 (0.0)	22 (100.0)
ほ場作業時	6 (27.3)	5 (22.7)	11 (50.0)	0 (0.0)	22 (100.0)
計	6 (13.6)	12 (27.3)	26 (59.1)	0 (0.0)	44 (100.0)

3. 装着することが増えた理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①研修受講で有効性がよく分かった。	13	61.9%
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	8	38.1%
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	9	42.9%
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	4	19.0%
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	4	19.0%
⑥その他	1	4.8%
計	39	—

4. 装着状況が特に変わらなかった理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から締めていたので変わらない。	2	5.0%
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	12	30.0%
③自分は気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	4	10.0%
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	25	62.5%
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	10	25.0%
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	17	42.5%
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	25	62.5%
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	4	10.0%
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	1	2.5%
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	2	5.0%
⑪その他	2	5.0%
計	104	—

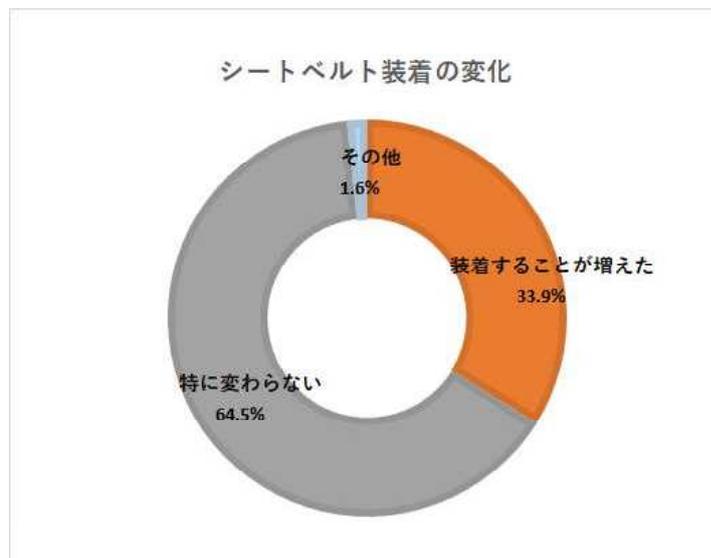
5. 研修で得た情報の伝達

選択肢	回答数	回答割合(%)
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	8	12.9%
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	19	30.6%
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	10	16.1%
④特に話はしていない。	25	40.3%
⑤その他	0	0.0%
計	62	100.0%

33 ページに示したように、2 回目のアンケートは約 2 / 3 の方にお答えいただきました。

本事例では「装着が増えた」との回答は 3 割強で、全事例中の平均的なところであった。増えたとする回答の半分以上は「だいたい／いつも」であり、好ましい結果である。なお、他事例と同様、ほ場よりも道路上での割合が高かった。

装着が増えた理由も「研修受講で有効性が分かった」が多い一方、以前と同様にあまり締めることがないと回答された方の理由は、1 回目と同様「面倒くさい」「乗り降りが多い」であり、本事例からもまず乗り降りの少ない道路上での習慣づけを始めていくことが有効と考えられる。



5. オホーツク地区農作業安全・労務管理・応急救護研修会 (5.11.29)

ホクレン関係 JA 系統の主催により訓子府において標記研修が行われたが、そのなかで、(株)北海道クボタによりシートベルト装着促進を含んで実機や転倒体験装置を用いた安全啓発・研修が実施された。当日日程や会場風景は以下のとおり。

実機による実技研修の一環として、本事業他事例と同様の様式により 15 名の受講者にアンケートを実施していただき、そのうち 8 名から約 1 ヶ月後、2 回目の回答をいただいた。

午前中：座学	講師	午後：実技	講師
○労務管理研修 GAP と労務管理等	社会保険労務士	○ VR ゴーグルによる事故体験	農研機構農機研
○応急救護研修 講演・AED などの操作法	消防士	○実機等による体験 自動操舵トラクタの安全確認 トラクタによる死角確認 転倒角体験装置・シートベルト促進	(株)北海道クボタ



シートベルト装着促進啓発パネル



転倒角体験装置



大型機の死角体験



模型を用いた安全指導

【アンケート結果 1 回目：研修時】

1. 回答者の概要

(1)性別及び年齢

	男	女
30歳未満	4	
30～40歳未満	5	
40～50歳未満	3	
50～60歳未満		
60～70歳未満		
70～80歳未満		
80歳以上		
計	12	

※無回答3名

(2)経営面積

	田	普通畑	飼料畑	樹園地	その他	総経営面積
1h未満	3	1			1	1
1h～3h未満	1	3				4
3h～5h未満		3				3
5h～10h未満		1				1
10h以上		2				2
計	4	10			1	11

※無回答4名

2. 所有するトラクターの状況

(1)エンジンの馬力

馬力	回答数
10～29PS	
30～59PS	
60～119PS	5
120～179PS	8
180PS以上	
計	13

※無回答2名

(2)安全装備の状況

装備	ベルトあり	ベルトなし	ベルト不明	計
キャビン	13			13
フレーム				
なし				
計	13			13

※無回答2名

3. シートベルト装着状況

(1)シートベルト装着状況 (()内は構成比(%))

	①一度もない	②ほとんどない	③たまに締める	④いつも締める	計
道路上	9 (69.2)	4 (30.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (100.0)
ほ場作業時	10 (76.9)	2 (15.4)	1 (7.7)	0 (0.0)	13 (100.0)
計	19 (73.1)	6 (23.1)	1 (3.8)	0 (0.0)	26 (100.0)

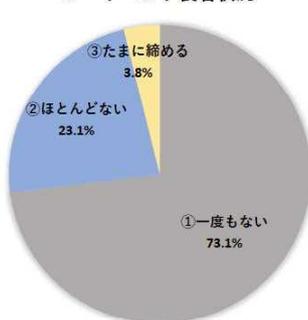
(2)シートベルトを締めない理由((1)の①、②の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①トラクタは速度が遅いので必要ない。	1	8.0%
②自分は十分気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	1	8.0%
③ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	7	56.0%
④周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	1	8.0%
⑤特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	5	40.0%
⑥締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	5	40.0%
⑦取り締まられたことがないので、締める必要はない。	1	8.0%
⑧果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない。		0.0%
⑨ベルトがどこにあるかわからない。		0.0%
⑩その他	1	8.0%
計	22	-

(3)シートベルトを締める理由((1)の③、④の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から必要性を理解しており締める習慣がついている。		0.0%
②事故や危険(ヒヤリハット)の体験をして、その後は締めるようにしている。		0.0%
③取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった。		0.0%
④部品としてついているものなので、締めたほうがいいのだろうと思った。		0.0%
⑤安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた。		0.0%
⑥家族や知人などからすすめられた。		0.0%
⑦所属している組織で締める決まりとなっている。		0.0%
⑧取り締まりにあうといやなので、特に路上では締めている。		0.0%
⑨その他	1	100.0%
計	1	-

シートベルト装着状況



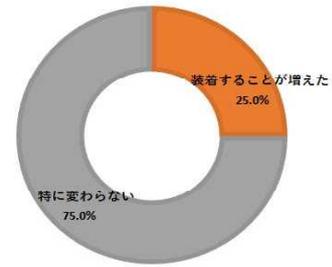
本研修受講者は、年齢は全員 50 歳未満で、北海道だけあって経営は比較的大規模の畑作が多く、トラクターは大型で全てキャビン仕様である。ところが、シートベルト装着率は極端に低く、道路上はほぼゼロ、ほ場でも 1 名のみが「たまに締める」との回答であった。締めない理由は他事例と同様で、「乗り降りが多い」「面倒くさい」が多く、「締めるという発想がなかった」との回答も多かった。専業経営で、トラクター乗車時間も長いものと思われるが、シートベルトに関する意識はほとんどなく、残念な結果であった。

【アンケート結果 2 回目：研修後概ね 1 ヶ月後】

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比 (%)
装着することが増えた	2	25.0
特に変わらない	6	75.0
その他		0.0
計	8	100.0

シートベルト装着の変化



2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況()内は構成比 (%)

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
ほ場作業時	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
計	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)

3. 装着することが増えた理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合 (%)
①研修受講で有効性がよく分かった。	0	0.0%
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	1	50.0%
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	1	50.0%
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	0	0.0%
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	0	0.0%
⑥その他	0	0.0%
計	2	—

4. 装着状況が特に変わらなかった理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合 (%)
①以前から締めていたので変わらない。	0	0.0%
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	0	0.0%
③自分は気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	0	0.0%
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	4	66.7%
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	1	16.7%
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	1	16.7%
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	3	50.0%
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	0	0.0%
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	0	0.0%
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	1	16.7%
⑪その他	3	50.0%
計	13	—

5. 研修で得た情報の伝達

選択肢	回答数	回答割合 (%)
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	0	0.0%
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	1	12.5%
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	3	37.5%
④特に話していない。	3	37.5%
⑤その他	1	12.5%
計	8	100.0%

2 回目にお答えいただいたのは 8 名と、あまり多いサンプル数ではないが、研修を受けて「装着することが増えた」との回答は 2 名、25%であった。ただしその 2 名も「たまに締める」との回答にとどまっている。締める理由としては「締めてみたらそれ程面倒でないと感じるようになった」「面倒とは思いますが、有効性がそれを上回る」が 1 名ずつである。それでも 1/4 の者に効果があったということは、地道に取り組んでいけば少しずつでも成果があがっていくと思われる。

6. JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ合同意見交換会（5.12.18）

前項のホクレン系統研修に時期・場所とも比較的近いところ（北海道北見市）でJAによる標記会合が行われた。当日の主要なイベントは、グループワークにより各人の身近な「ヒヤリハット事例」「事故事例」を整理分類して対策を考えていこうというもの（詳細は本事業の昨年度報告書、協会資料 No.1792 参照）。当該意見交換会のなかで当協会から農作業事故対策一般及びシートベルト装着促進について報告し、アンケートを実施させていただいた。23名の参加者で、2回目も含め全員から回答を得ることができた。なお、シートベルト促進の研修資料は P.79 参照。

なお、当日の様子はローカルテレビ局により取材・放映され、そのなかでシートベルトにも触れられており普及促進の一助となることも期待される。

ローカルテレビ画面



会場風景



事故マトリックス作成のグループワーク



シートベルトに触れた発言



JA 青年部で独自に作成した旗

【アンケート結果 1 回目：意見交換会時】

1. 回答者の概要

(1) 性別及び年齢

	男	女
30歳未満		
30～40歳未満	9	5
40～50歳未満		1
50～60歳未満		6
60～70歳未満		2
70～80歳未満		
80歳以上		
計	9	14

※無回答0名

(2) 経営面積

	田	普通畑	飼料畑	樹園地	その他	総経営面積
1h未満	1	1		3		1
1h～3h未満	4				1	5
3h～5h未満	7					7
5h～10h未満	3					3
10h以上	1					1
計	16	1		3	1	17

※無回答5名

2. 所有するトラクターの状況

(1) エンジンの馬力

馬力	回答数
10～29PS	
30～59PS	
60～119PS	4
120～179PS	6
180PS以上	1
計	11

※無回答12名

(2) 安全装備の状況

装備	ベルトあり	ベルトなし	ベルト不明	計
キャビン	12		2	14
フレーム			1	1
なし				
計	12		3	15

※無回答8名

3. シートベルト装着状況

(1) シートベルト装着状況 (()内は構成比(%))

	①一度もない	②ほとんどない	③たまに締める	④いつも締める	計
道路上	8 (53.3)	5 (33.3)	2 (13.3)	0 (0.0)	15 (100.0)
ほ場作業時	8 (53.3)	5 (33.3)	2 (13.3)	0 (0.0)	15 (100.0)
計	16 (53.3)	10 (33.3)	4 (13.3)	0 (0.0)	30 (100.0)

(2) シートベルトを締めない理由 ((1)の①、②の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①トラクタは速度が遅いので必要ない。	2	15.4%
②自分は十分気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	1	7.7%
③ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	9	69.2%
④周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	3	23.1%
⑤特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	7	53.8%
⑥締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	4	30.8%
⑦取り締まられたことがないので、締める必要はない。	1	7.7%
⑧果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない。		0.0%
⑨ベルトがどこにあるかわからない。	2	15.4%
⑩その他	1	7.7%
計	30	-

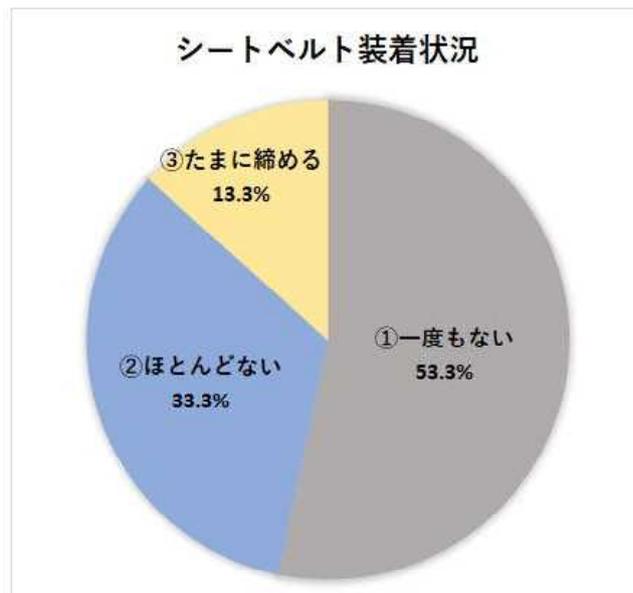
(3) シートベルトを締める理由 ((1)の③、④の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から必要性を理解しており締める習慣がついている。		0.0%
②事故や危険(ヒヤリハット)の体験をして、その後は締めるようにしている。		0.0%
③取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった。	1	50.0%
④部品としてついているものなので、締めたほうがいいのだろうと思った。		0.0%
⑤安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた。		0.0%
⑥家族や知人などからすすめられた。	1	50.0%
⑦所属している組織で締める決まりとなっている。		0.0%
⑧取り締まりにあうといやなので、特に路上では締めている。		0.0%
⑨その他		0.0%
計	2	-

同JA 3組織合同の意見交換会であるが、「フレッシュミズ」とは若手女性のこと
で、これらから参加者は男性は全員40歳未満で、人数は女性の方が多い。地域柄、
トラクターは大馬力、ほとんどがキャビン仕様である。「ベルトの在りかが分からない」
との回答も2例あった。

シートベルトについては「いつも締める」はゼロ、「たまに締める」が1割強であり、
前項のオホーツク地区の結果と同様、現状で装着が普及しているとはいえない。大型
でキャビン仕様であることが、「守られている」との感覚を生み、このような結果につ
ながるのかも知れない。

なお、地域・時期の関係上、2回目アンケートまでにトラクターに乗車するのは除
雪作業が主体となる。この作業はほとんどが男性が行うとのことで、本会合で参加が
多かった女性は2回目の対象外となってしまうことが見込まれる。そのため、本取組
みに限り、家族に研修で聞いたシートベルトの重要性を伝えた上で、その家族の装着
率等も調査することとした。

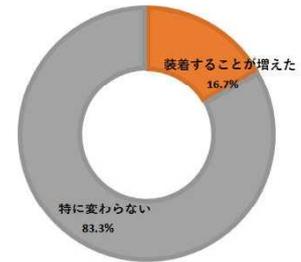


【アンケート結果2回目：意見交換会後概ね1ヵ月後】本人

シートベルト装着の変化

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比(%)
装着することが増えた	2	16.7
特に変わらない	10	83.3
その他		0.0
計	12	100.0



2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況(()内は構成比(%))

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
ほ場作業時	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
計	1 (33.3)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)

3. 装着することが増えた理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①研修受講で有効性がよく分かった。	2	100.0%
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	0	0.0%
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	0	0.0%
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	0	0.0%
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	0	0.0%
⑥その他	0	0.0%
計	2	—

4. 装着状況が特に変わらなかった理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から締めていたので変わらない。	0	0.0%
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	3	30.0%
③自分は気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	0	0.0%
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	4	40.0%
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	0	0.0%
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	1	10.0%
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	6	60.0%
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	0	0.0%
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	0	0.0%
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	0	0.0%
⑪その他	3	30.0%
計	17	—

5. 研修で得た情報の伝達

選択肢	回答数	回答割合(%)
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	0	0.0%
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	3	25.0%
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	3	25.0%
④特に話はしていない。	6	50.0%
⑤その他	0	0.0%
計	12	100.0%

受講者本人で2回目アンケートまでにトラクター乗車機会があったのは12名であるが、「装着が増えた」との回答は2名にとどまった。ただ、前回はゼロであった「だいたい/いつも締める」との回答が1名あったのは前進である。

「装着状況が特に変わらない」との回答で締めない理由としては、前回とほぼ同様である。

【アンケート結果 2 回目：意見交換会後概ね 1 ヶ月後】 家族

シートベルト装着の変化

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比(%)
装着することが増えた		0.0
特に変わらない	10	100.0
その他		0.0
計	10	100.0



2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況()内は構成比(%)

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
ほ場作業時	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
計	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)

3. 装着することが増えた理由(複数回答)

選択肢	回答数
①研修受講で有効性がよく分かった。	0
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	0
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	0
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	0
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	0
⑥その他	0
計	0

4. 装着状況が特に変わらなかった理由(複数回答)

選択肢	回答数
①以前から締めていたので変わらない。	1
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	1
③自分は気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	0
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	5
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	0
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	2
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	6
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	0
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	0
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	0
⑪その他	1
計	16

5. 研修で得た情報の伝達

選択肢	回答数
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	0
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	0
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	0
④特に話はしていない。	0
⑤その他	0
計	0

受講者から研修内容を家族に伝えてもらうことによる効果を期待したが、結果は上記のとおり全滅であった。この一例だけで云々するのは適切ではないが、やはり本人に直接伝えることに比べて、啓発効果は落ちるものと考えられる。

7. 館林市 農業塾 (6.2.6) : 農業者協議会・農業委員会・農業青年会議

同市の標記3団体の共催により、農業関係の情報交換会的な会合が開催されている。今回は「農作業安全」をテーマとして実施され、当協会が講師を務めた。そのなかでシートベルトの啓発をかなり強調して時間をかけて行うとともに、アンケートにもご協力いただいた。

安全研修の資料は P.81 参照。

【アンケート結果 1 回目：農業塾時】

1. 回答者の概要

(1) 性別及び年齢

	男	女
30歳未満	1	
30～40歳未満	1	
40～50歳未満	2	
50～60歳未満	8	
60～70歳未満	10	
70～80歳未満	10	
80歳以上	1	1
計	33	1

※無回答1名

(2) 経営面積

	田	普通畑・樹園地	飼料畑	その他	総経営面積
1h未満	1	7		1	
1h～3h未満	8	2	2		
3h～5h未満	6				
5h～10h未満	7				
10h以上	7	3			
計	29	12	2	1	

※無回答7名

2. 所有するトラクターの状況

(1) エンジンの馬力

馬力	回答数
20未満	
20～29PS	18
30～49PS	16
50～99PS	32
100PS以上	5
計	71

※複数回答

(2) 安全装備の状況

装備	ベルトあり	ベルトなし	ベルト不明	計
キャビン	46		2	48
フレーム	10	2	1	13
なし	4	4		8
計	60	6	3	69

3. シートベルト装着状況

(1) シートベルト装着状況 (()内は構成比(%))

	①一度もない	②たまに締める	③だいたい締める	④その他	計	無回答
道路上	30 (90.9)	2 (6.1)	1 (3.0)	0 (0.0)	33 (100.0)	0
ほ場作業時	29 (90.6)	2 (6.3)	1 (3.1)	0 (0.0)	32 (100.0)	0
計	59 (90.8)	4 (6.2)	2 (3.1)	0 (0.0)	65 (100.0)	0

(2)シートベルトを締めない理由((1)の①、②の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①トラクタは速度が遅いので必要ない。	4	12.7%
②自分は十分気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	1	3.2%
③ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	7	22.2%
④周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	1	3.2%
⑤特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	13	41.3%
⑥締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	19	60.3%
⑦取り締まられたことがないので、締める必要はない。		0.0%
⑧果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない。	3	9.5%
⑨ベルトがどこにあるかわからない。	3	9.5%
⑩その他	2	6.3%
計	53	-

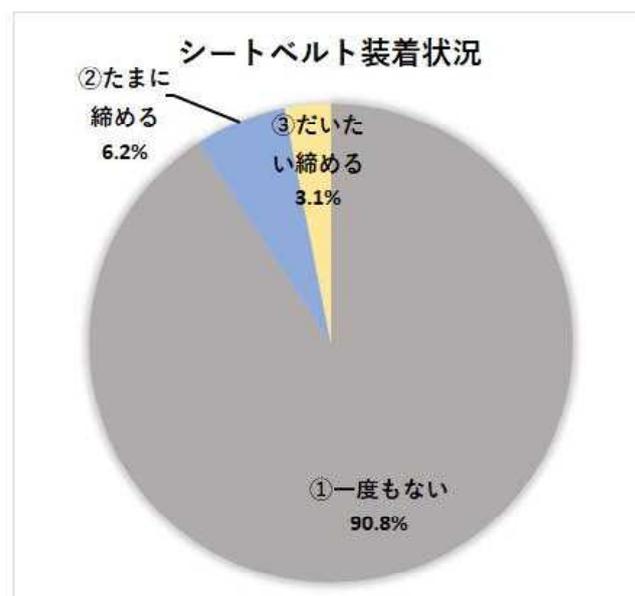
(3)シートベルトを締める理由((1)の③、④の者、複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から必要性を理解しており締める習慣がついている。		0.0%
②事故や危険(ヒヤリハット)の体験をして、その後は締めるようにしている。		0.0%
③取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった。	1	100.0%
④部品としてついているものなので、締めたほうがいいのだろうと思った。		0.0%
⑤安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた。		0.0%
⑥家族や知人などからすすめられた。		0.0%
⑦所属している組織で締める決まりとなっている。		0.0%
⑧取り締まりにあうといやなので、特に路上では締めている。		0.0%
⑨その他		0.0%
計	1	-

3団体共催ということもあり、参加者は年齢・経営規模とも幅広く分布している。この結果、トラクターの大きさも様々であるが、キャビン仕様が比較的多い。ただ、フレームのない仕様のトラクターも8台と1割以上、フレーム仕様でもベルトなし/不明が3台あった。

ただし「フレームなし/ベルトあり」との回答が4例あり、実際にはそのようなトラクターはほとんど実在しないため、事実誤認されている場合もありうる。

本アンケートでの装着率は「だいたい」が3%、「たまに」を合わせても1割以下と低い方であった。締めない理由としては「面倒くさい」が多いのは他事例と同じであるが、「締めるという発想がなかった」との回答も4割近くあり、この点は他事例よりは多くなっている。会合の性格からいって担い手以外の方も一定数参加されており、そのような参加者構成の結果がこのアンケート回答に現れているとも考えられる。



【アンケート結果 2 回目：農業塾後概ね 2 週間】

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比(%)
装着することが増えた	13	52.0
特に変わらない	10	40.0
その他	2	8.0
計	25	100.0

2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況(()内は構成比(%))

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	1 (8.3)	2 (16.7)	9 (75.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
ほ場作業時	3 (23.1)	1 (7.7)	8 (61.5)	1 (7.7)	13 (100.0)
計	4 (16.0)	3 (12.0)	17 (68.0)	1 (4.0)	25 (100.0)

3. 装着することが増えた理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①研修受講で有効性がよく分かった。	13	100.0%
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	5	38.5%
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	3	23.1%
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	3	23.1%
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	4	30.8%
⑥その他	1	7.7%
計	29	—

4. 装着状況が特に変わらなかった理由(複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から締めていたので変わらない。	0	0.0%
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	1	10.0%
③自分は気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	1	10.0%
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	4	40.0%
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	2	20.0%
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	5	50.0%
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	8	80.0%
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	0	0.0%
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	1	10.0%
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	0	0.0%
⑪その他	2	20.0%
計	24	—

5. 研修で得た情報の伝達

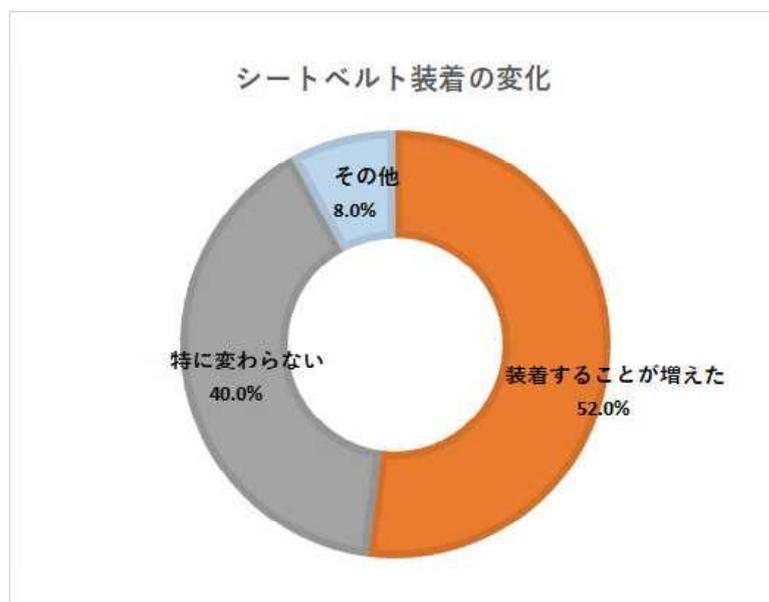
選択肢	回答数	回答割合(%)
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	1	4.0%
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	13	52.0%
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	5	20.0%
④特に話していない。	6	24.0%
⑤その他	0	0.0%
計	25	100.0%

回答は、25人／34人と1回目回答者の3／4の方からいただいた。

1回目の装着率が低かったこととも関係するのかもしれないが、「装着することが増えた」との回答が5割以上と他事例と比べてかなり多い。それも「だいたい／いつも締める」との回答が多く、顕著な効果がみられた例ということもできよう。

締めることが増えた理由としては「研修受講」は全員挙げていて、ついで「締めてみたらそれ程面倒でなかった」「ヒヤリハットを思い出した」が続く。

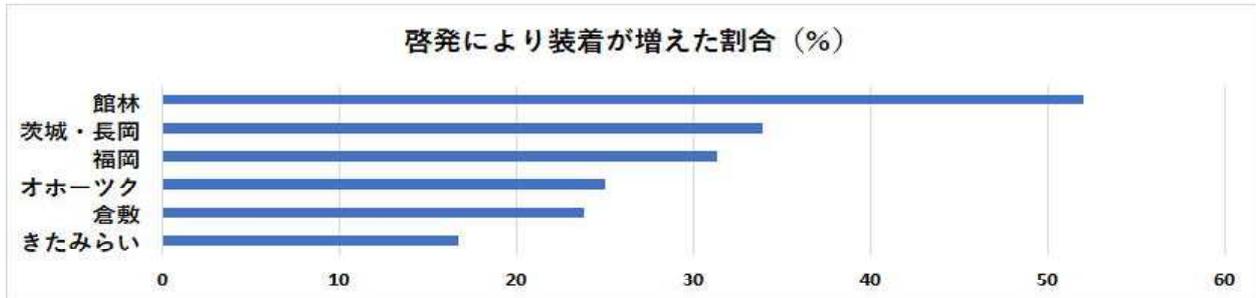
本事例が効果が高かったとしてその理由であるが、他事例に比べて研修にかなり時間をかけ（当日の農業塾は当協会の農作業安全研修だけがテーマ）、シートベルト関係だけで9枚のスライドを用いて説明した上、P.60に示す啓発動画も上映したことが結果に結びついたのかも知れない。やはりある程度時間をかけた丁寧な説明で、装着の理由・メリットをご理解いただくことが重要であるものと考えられる。



8. アンケート結果の概括

各事例の2回目のアンケートで、シートベルトを「装着することが増えた」との回答率を順に並べると次表のとおり。

実施箇所・内容	館林 農業塾	茨城・長岡 農機フェア	福岡 免許講習	オホーツク 実技体験	倉敷 農機フェア	きたみらい 意見交換会
農家層	一般	担い手	一般	担い手	一般	担い手
増えた率(%)	52.0	33.9	31.3	25.0	23.8	16.7/ 0.0



もともとの装着率にバラツキがあり、かつアンケート調査には限界があるので、単純にこの数字だけから論述するのは必ずしも適当ではないが、それにしても館林のアップ率は高く、ある程度時間をとった説明と動画視聴が効果を発揮したと考えられる。

次は茨城・長岡と福岡がほぼ同率であるが、イベント内容などはかなり異なる。茨城・長岡は大規模層が多いので説明が理解されやすい、福岡は免許講習なので受講者が大変真剣であることが比較的高かった理由とみられる。

次のグループはオホーツクと倉敷であるが、これも様相が異なる。倉敷は地域柄、中小規模が多く研修効果が上がりにくい、一方、オホーツクはキャビン付き大型トラクターがほとんどを占めていることから、ベルトの必要性が理解されにくいのではないかと考えられる。後者の極端例が、アンケート時期が冬期であったことも加えて、きたみらいの数字に表れたといえよう。

9. 全アンケート結果の集計

既述のように、取組み地域毎に農家層や営農の状況、トラクターの大きさなどが異なるため全アンケートを単純に集計することは適切でないとも考えられるが、一方では折角多数データを収集することができたため、これらの全体像・平均値を知っておくことにも意味があると思われる。

アンケート様式は事務局でひな形を作って提供し、ほとんどが似通っているので一応集計が可能であるが、一方では各イベント主催者の意向により若干変更された部分もある。特に設問3(1)：シートベルト装着状況の選択肢がアンケートによって若干異なっており、全体集計においては選択肢数が個々アンケートより増えている。このため設問3(2)(3)の回答割合については厳密な算出は難しく、近似的なものとして算出しているので、ご理解を願いたい。

なお、1回目はヘルメットに関する設問もあり、また2回目は感想・意見等を述べてもらったので、それらについても記載する。

【アンケート結果 1 回目：全事例】

1. 回答者の概要

(1) 性別及び年齢

	男	女
30歳未満	17	
30～40歳未満	37	7
40～50歳未満	24	3
50～60歳未満	25	7
60～70歳未満	53	3
70～80歳未満	33	
80歳以上	14	3
計	203	23

※無回答 名

(2) 経営面積

	田	普通畑・樹園地	飼料畑	その他	総経営面積
1h未満	36	32		5	31
1h～3h未満	38	8	3		31
3h～5h未満	21	7			12
5h～10h未満	22	3			21
10h以上	49	30		1	51
計	166	80	3	6	146

※無回答7名

2. 所有するトラクターの状況

(1) エンジンの馬力

馬力	回答数
20未満	17
20～29PS	83
30～49PS	82
50～99PS	96
100PS以上	38
計	316

※複数回答

(2) 安全装備の状況

装備	ベルトあり	ベルトなし	ベルト不明	計
キャビン	211	1	4	216
フレーム	67	7	4	78
なし	8	20	1	29
計	286	28	9	323

3. シートベルト装着状況

(1) シートベルト装着状況 (()内は構成比(%))

	①一度もない	②ほとんどない	③たまに締める	④だいたい締める	⑤いつも締める	⑥その他	計	無回答							
道路上	163	72.1%	17	7.5%	16	7.1%	24	10.6%	4	1.8%	2	0.9%	226	100.0%	0
ほ場作業時	167	74.6%	26	11.6%	12	5.4%	7	3.1%	11	4.9%	1	0.4%	224	100.0%	0
計	330	73.3%	43	9.6%	28	6.2%	31	6.9%	15	3.3%	3	0.7%	450	100.0%	0

(2) シートベルトを締めない理由 (複数回答)

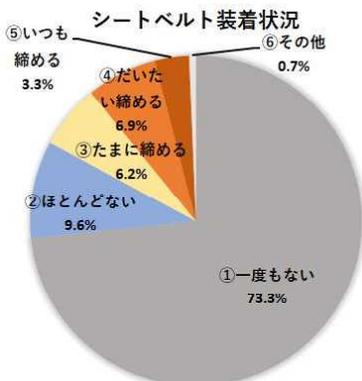
選択肢	回答数	回答割合(%)
①トラクタは速度が遅いので必要ない。	43	21.4%
②自分は十分気をつけているので、事故にあうことは考えられない。	20	10.0%
③ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	93	46.4%
④周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	26	13.0%
⑤特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	74	36.9%
⑥締めた方がいいのかなと思うが、やはり面倒くさい。	100	49.9%
⑦取り締まられたことがないので、締める必要はない。	18	9.0%
⑧果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない。	6	3.0%
⑨ベルトがどこにあるかわからない。	11	5.5%
⑩その他	13	6.5%
計	404	-

回答割合は、回答数を3(1)計欄の①～③計で除した数値×2

(3) シートベルトを締める理由 (複数回答)

選択肢	回答数	回答割合(%)
①以前から必要性を理解しており締める習慣がついている。	17	73.9%
②事故や危険(ヒヤリハット)の体験をして、その後は締めるようにしている。	8	34.8%
③取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった。	5	21.7%
④部品としてついているものなので、締めたほうがいいのかと思う。	2	8.7%
⑤安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた。	6	26.1%
⑥家族や知人などからすすめられた。	4	17.4%
⑦所属している組織で締める決まりとなっている。	2	8.7%
⑧取り締まりにあうといやなので、特に路上では締めている。	10	43.5%
⑨その他	3	13.0%
計	57	-

回答割合は、回答数を3(1)計欄の④+⑤で除した数値×2



1 回目は、全体を集計してみると 8 割強の方がシートベルトを「一度も締めたことがない」「ほとんどない」との回答で、1 割強が「いつも締める」「だいたい締める」と答えている。前章の観察調査ともほぼ一致する結果で、これが我が国の概ねの装着率といえよう。ただ、本アンケートは我が国農業の平均よりは若年齢、大規模層、大型トラクターが多いため、本当の平均よりは高く出ているかも知れない。

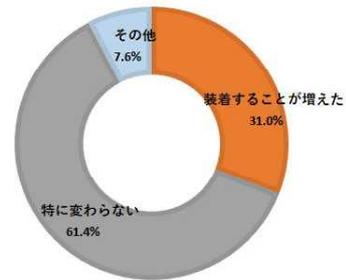
締めない／締める理由は各事例で述べてきたとおりであり、いずれでもそう違いはみられない。

【アンケート結果 2 回目：全事例】

1. シートベルト装着の変化

研修受講後の状況	回答数	構成比 (%)
装着することが増えた	53	31.0
特に変わらない	105	61.4
その他	13	7.6
計	171	100.0

シートベルト装着の変化



2. 「装着することが増えた」者の現在の装着状況(()内は構成比 (%))

	①一度も/ほとんどない	③たまに締める	④だいたい/いつも締める	その他	計
道路上	2 (4.1)	12 (24.5)	35 (71.4)	0 (0.0)	49 (100.0)
ほ場作業時	16 (30.8)	9 (17.3)	26 (50.0)	1 (1.9)	52 (100.0)
計	18 (17.8)	21 (20.8)	61 (60.4)	1 (1.0)	101 (100.0)

3. 装着することが増えた理由 (複数回答)

選択肢	回答数	回答割合 (%)
①研修受講で有効性がよく分かった。	38	71.7%
②受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった。	19	35.8%
③今でも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった。	22	41.5%
④周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった。	8	15.1%
⑤事故や危険な経験(ヒヤリハット)があったのを思い出した。	8	15.1%
⑥その他	5	9.4%
計	100	—

4. 装着状況が特に変わらなかった理由 (複数回答)

選択肢	回答数	回答割合 (%)
①以前から締めていたので変わらない。	9	8.6%
②トラクターは速度が遅いので必要ない。	19	18.1%
③自分は気をつけているので、事故にあふことは考えられない。	9	8.6%
④ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない。	53	50.5%
⑤周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う。	19	18.1%
⑥特に考えたことはない、締めるという発想がなかった。	38	36.2%
⑦締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい。	61	58.1%
⑧取り締まられたことがないので、締める必要はない。	5	4.8%
⑨果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しているため、締める必要はない。	2	1.9%
⑩ベルトがどこにあるか知らない。	4	3.8%
⑪その他	15	14.3%
計	234	—

5. 研修で得た情報の伝達

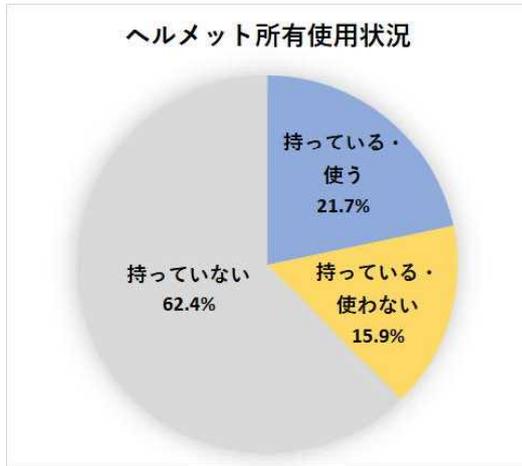
選択肢	回答数	回答割合 (%)
①シートベルトの必要性につき周囲に話をした結果、締める人が増えた(一人でも可)。	13	7.6%
②シートベルトの必要性につき周囲に話をしたが、締める人が増えたかどうかまでは不明。	47	27.5%
③研修内容の話はしたが、シートベルト装着をすすめるまではしていない。	28	16.4%
④特に話はしていない。	67	39.2%
⑤その他	4	2.3%
計	159	93.0%

全合計で、2回目に「装着することが増えた」との回答は3割強であった。この数字をどうみるかであるが、さまざまな取組みの結果としてはまずまずといえるかも知れない。装着することが増えた理由としては研修受講を挙げる方が多く、やはりそのような取組みを第一に推進すべきである。

【アンケート結果1回目：ヘルメット全事例】

ヘルメットの所有状況

回答	回答者数	割合(%)
持っている	83	37.6%
持っていない	138	62.4%
計	221	100.0%



ヘルメットの使用状況

使用するとき	回答数	割合(%)
① 次の機械によく使う	乗用型トラクター	10 12.0%
	歩行型トラクター	1 1.2%
	コンバイン	6 7.2%
	田植機	7 8.4%
	農用運搬機	5 6.0%
	SS	0 0.0%
	刈払機	17 20.5%
	その他	6 7.2%
②高所作業時	18	21.7%
③ドローン	8	9.6%
④その他	4	4.8%
⑤持っているが使わない	35	42.2%
計	117	-

①～④は複数回答、割合の分母は所有の83名

表に示したように、ヘルメットの所有は4割強にとどまっており、まだまだ低いといわざるを得ない。加えて使用状況の表にあるように、その所有者のなかでも「持っているが使わない」との回答が4割強あり、両者を掛け合わせると使用者は全体の2割強に過ぎない。

どのようなときに使われるかであるが、多いのは高所作業と刈払機の使用である。ただしこれも所有者の2割強に過ぎず、あまり使われているとはいえない。ついで乗用型トラクター、ドローンであり、後者は研修受講時に指導があることが影響していると考えられる。

【アンケート結果2回目：意見・感想欄】

以下、自由記載欄にご記入下さった内容を順不同で掲載する。多かった意見・感想を挙げると、①研修・PRの重要性、②シートベルトリマンインダー等のハード装備、③法的取り締まりの導入等であった。いずれもこれまで言われていた／取り組まれていたことであるが、農業者自らも③について前向きな意見が結構あったのは意外であった。

みんなトラクターのシートベルトは必要がないと思っているらしい。一度安全研修を受講すればシートベルトの必要なことがわかるのではないか。

キャビンのトラクターに乗り換えたならシートベルトをするだろう。

自動車と違って体を動かす機会が多い。その為、前後・左右・下部を確認する必要があるので体を締めつける感じがいやです。事故が起こりやすいのが、ほ場の出入口としますので、我が家では夫々昇降路をコンクリートで幅広く、15%の傾斜にしました。シートベルトは抵抗の少ない細目の物にしてはどうでしょうか？

トラクター耕耘中は気を引き締めて作業している。

自動車と同じように取り締まりをしたら増えるのではないか。

私は70歳頃から長男がすべての農業機械を運転してくれています。長男も安心、安全につとめて作業をしてくれて助かってます。今後も宜しくお願いします。

1. 土ぼこりや泥水、水で汚れていて締める気になれない。2. いちいち長さ調節は面倒。これらへの対策は、自動車同様のオートリトラクター式とし、バックルも自動車同様シートの横に生えていれば片手でワンモーションでセットできるし、降りているときはリトラクターケースに巻き取られているから汚れたりぬれたりしにくい。非常時にベルトが出て来ない(伸びない)ためには、これも自動車同様のGと傾斜でロックするELR(エマージェンシー・ロック・リトラクター)にすれば良い。大型・小型特殊「自動車」なら自動車らしく。安全というならコストをケチるな。自動車のシートベルトの歴史に学べ。理念だけでは人は動かない。(元某自動車メーカー開発・テスト担

当)

研修会やシートベルトの装着の広告をする。

シートベルトを実装しなければエンジンがかからない、走行ギアが入らない等の安全対策。

農業機械にはほとんどシートベルトはついていないですね。特にトラクターだけ注意する事はある。

自分自身が危険と思わなくては何もならない。

JAの広報誌などで、現場(事故)の写真や動画、具体例、エピソードを一度きりでなく継続的に注意喚起すること(継続は力なり⇒ベルト着用の習慣化につながると思う)。

実際に体験してみて、転倒の危険性がよく分かった。キャビンがあるので油断しがちだったので、少し考え方を变えて、安全に作業したい。田植機やコンバイン等にはシートベルトがないので、その様な機械で作業する際は、より一層注意したいと思う。

映像(動画)で危険性(農業機械操作時ノーシートベルト)をいろんな場所やツールを使って発信すること(YouTubeなどでも)。

目から危険性がくり返し入ることでシートベルトの着用率は上がると思います。私の田のある所は水路が多く、坂はありませんが、自分自身がまず気をつけること、シートベルトを着用することを実行して行きたいと思います。

今回の研修等の他にも、JAや農機具販売店等でもポスター等を掲示してはどうかと思う。

古いトラクターのため、シートベルトはないし転倒中シートベルトを外して逃げにくいのではないと思った。〈ハウス(キャビン?)もフレームもないため〉。

道路上だけシートベルトをした方がよい。ほ

場で転倒した時にとっさに飛び降りることが出来ない。

シートベルトは道路での走行に必要と思うが、作業する田が家の近くにあるため、必要性を感じられない。本来は作業中に必要であろうが、乗り降り時に不便である。又、キャビンがあるので安心感がある。

①基本的な事を再認識し、運転の際気を付ける様になった。即ち安全運転に役に立った。②とっさの転倒事故の際、シートベルトをしていると身をかかわす事ができないため、シートベルトの装着が必ずしも有効とは言えない。(私はトラクターで転倒事故に2度あった。その際シートベルトを装着していなかったのが、瞬時に身をかまし飛び降りる事ができ、怪我をせずいられた。)

研修会后、シートベルトの必要性について考え直せることができて良かった。

自動車と同様にランプの点灯等で警告する。

2点式シートベルトは習慣がなく、3点式のシートベルトにして、なおかつただ座る椅子ではなく、レカロシートのようなホールド性のあるシートにすれば……。もっとスピードが出れば(100キロとか)間違いなく装着する。

取り締まりがあるのであれば締めると思いません。

テレビコマーシャルをする。

シートベルトは法的にしなければならないと思ひ、何も考えない。

身近な人にシートベルトの有効性について話をしていく。

今回の研修において事故の危険性やシートベルト着用の安全性を認識しました。シートベルトの必要性を広くPRして欲しい(警察や農協など)。

自分の為であるとともに周りにも迷惑をかけ

ないで済む。

トラクターに関わらずシートベルトが義務化されている乗り物は、シートベルトを着用しないとエンジンがかからないようにして欲しい。

車と同様に締め忘れブザーの装置追加。目視できる場所へのステッカーの貼り付け等。

農作業で変わるとは思いますが、安全ベルトを着けることがクセになる様にしたいと考えています。トラクターは動きが大きいので大事だと考えます。気を引き締めるためにも。

車と同じ様にシートベルトをしなければメーターに大きく警告灯が点灯すればシートベルト装着が増えるのではないですか。

これからの農業にとって大切だと…農作業安全の意識に対し…思う。が、こういった話は足を運ぶこと、字を読むことなど意識が高くないと伝わらない。動画や音なら何となく入ってくるような感じがする。例えば農協の懇談会や総会、部会で足を運んでもらった人に会議前に5分ほど説明してもらおう。YouTubeやティックトックの活用。

後ろを向く作業が多いので、シートベルトをしていると半身になりにくい。凹凸の多い作業では安全性というよりもシートベルトをした方が楽なので装着している。

冬期につき研修後は敷地内の除雪作業でしか乗っていない。春以降はシートベルト装着を意識する。

トラクターも車と同様にシートベルトをしないと警告音が鳴るとシートベルト装着率が増えると思う。

シートベルトを装着しないとエンジンがかからないようにする。

体験することが大切だと思いました。

シートベルトを締めないと警告灯ないし警告

音が鳴るようにする（自動車と同様に）。

他のメーカーでも研修会を開き、シートベルト装着の大切さを理解してもらえるようにしてください。

これからのシートベルトは3点式を全て標準にしてほしい。

研修を受ける機会が増えればトラクターに乗る人はシートベルトの大切さがわかり、装着する人が増えると思う。

急角度でのシートベルトの必要性を仲間に説明する事が大事だと思った。

車の様に音声やメーターパネルに警告灯を増やす。

昨年度〇〇〇が主催した農機具展示会に参加させて頂きました。その際に貴社様に声をかけて頂き、その際に貴社様よりトラクターの安全運転についてご指導を頂き有り難う御座いました。大変身にしみました。欲を言わせていただけののであれば、もっと積極的に声を掛けて一人でも多くの人に体験をしてもらえれば、更に事故の無い明るい農業に繋がるのではないのでしょうか。

車と同じように減点制度。

シートベルトについて考える良い機会になりました。ありがとうございます。

自動車と同じように、肩から装置できれば良いと思った。

ディスプレイに表示するとかエンジンがかからないとか。

シートベルトの未装着状態を示すメーター内の点滅ランプや警告音等があるとよいと思う。

自動車は必ずシートベルトを装着するので、それと同じものと説明すると納得しやすいのでは。ほ場内では畝をまたぐ時でもヒヤッとすること

があります。〇〇〇の展示会ではVRで実際に落ちる体験ができました。ヒヤッとする経験をVRでも出来たことで、本当に気を付けようと思いました。

農協で農作業安全講習会に毎年参加している。事故事例でシートベルトの必要性を伝えてはどうか。自動車のように警報装置を設置してはどうか（コストがかかると思うが）

研修時のトラクター横転事故に至る限界傾斜角度を知ることが出来てよかった。片手で抵抗なくもっと簡単に脱着できるシートベルトを開発してもらいたい。

シートベルトの取付けをシート脇からでなくリアフェンダーに取付けては？

貴協会はシートベルトを装着すれば事故が無くなるとお考えでしょうか？ 上から目線で現場のことがわからない方ばかりだからこのようなアンケートが必要なのでしょうか。実際作業してみたらいかがですか？ 事故が起きても死亡者0としたいのであれば、ラリー競技車のようにロールバー付き6点式シートベルトを正確に装着しなければ無理であり、6点式を装着しての農作業は不可能だと思います。

トラクター体験がためになりました。

普及啓蒙の常態化をそれぞれの職場が自己責任で行うことが重要。

〇〇支店〇〇支店長に誘っていただき感謝です。〇〇地区でシートベルト着用装置の有無不明。機種が古いようだ。マスコミ報道を思い出し、過去には転倒で死者が出ていることは知っていた。古いトラクターから最新機種にはまだまだ時があるのかなーと思う。作業する方にはエアコン、暖房設備と更に演歌聞けるといいネーと笑顔で語りました。最新の機種を見ることが出来て良かったです。

シートベルトの脱着の位置の使用しやすい収

納の位置関係を考えてもらいたい。

車と同様、シートベルトリマインダーを取り入れる。

増やすには法律で義務化するのがいちばん早い。しかし農作業もするには無理があるのでは。締め方を簡単にする。道路ではシートベルトの装着は必要です。

シートベルトをしないとエンジンがかからないようなトラクターの開発。

就農して12年たちましたが、トラクターのシートベルトをしているのとしていないのでは安全性がわかりました。

転倒する角度の体験は良かった。作業によってはシートベルトをしようと思う。

シートベルト以外の安全装置が望ましい。

音を鳴らす。

事故の重大性を認知してもらおう学習会等が必要なのかなと思う。

女性目線での安全に関する意見を聞いて大変いい機会となりました。

シートベルトが付いているトラクターを運転する事があれば着用したいと思う。

春から植え付け作業前に全部のトラクターのベルトを確認する。北海道での事故事例などもっと身近な情報で周知する。

長時間乗りっぱなしの時は装着しようと思います。

今回の研修のことについて、経営主である主人に話しました。冬場なのでトラクターに乗る機会はないのですが「今後締めようと思った」と話していました。春が楽しみです。「継続して」農作業安全のことについて話すことが大切ではないかと思っています。すぐに具体的で、大きな変化はな

いかもかもしれませんが。

研修内容を作業員全員に伝え、過去に起きた事例を話し合ったが、長年の癖や慣れもあり、安全についての意識（シートベルトの着用）定着には時間がかかりそうだ。

ほ場ではシートベルトの付けはずしをしていたら仕事が進まないの、道路に出るときは必ず締めよう話し合う。

車のようにシートベルトを装着しないとブザーが鳴れば増えると思います。でも、トラクターの値段が上がってしまうので・・・。

中古トラクターでシートベルトがない。

メーカーや販売店がシートベルト装着を周知すること。車と同じ様にシートベルトを装着しないと音が鳴る。

シートベルトの取り外しがしやすいようになればよい。

今までトラクターシートベルトの必要性についての研修など一度もなかったの、大変勉強になりました。今後、自分の身を守るため必要だと思っています。

キャビン付きではヘルメット不要でよいのではないか。

安全第一で作業するようになった。

法的方法、道路交通違反として。

今回の研修ではシートベルトの大切さを実感しました。自宅からは場内までは最低装着するよう心がけます。

農作業安全研修を受けたことがなかったので参考になった。シートベルト装着の有効性を知る機会がふえれば増やせるのではないか。

身近に研修が受けられるようにしてもらいたい。法的罰則を設ける。

JA情報にチラシをのせる。

良い話でした。これからは締めようと思いません。

自動車のようにベルトを締めないと警告音が鳴れば良いと思います。

研修受講が良い様だ。

自動車と同様に新車買ってからブザー等で知らせる様にする装置を付けてもらおう。

トラクターなどに乗る時も、意識的にシートベルトをする習慣をつけるようにしたいです。

JA便り等で啓発記事を見ているが、JA地区座談会等で伝えてほしい。しかし、参加、出席者が少ないのが実態。

Ⅲ. 普及啓発手法の見直しとその効果の共有

1. 手法の方向性

I. の観察結果、II. のアンケート結果のそれぞれ「概括」項目に、取組みから得られた手法の効果の違いについては記述した。さらに両者を共通して得られた傾向としては、常識的な結果ながら次のようなことであった。

- (1) 対面で直接声をかける・研修することが、パンフやその他間接的手段よりもかなり効果的である。
- (2) その直接の声かけも、ある程度時間をかけ納得するような資料を用いて丁寧な説明で行うのが効果的である。
- (3) 効果は地域農業や機械装備の違いを大きく受けるので、それぞれの相手に合った内容・手法が必要である。
- (4) 声をかけられた／研修を受講された農業者の方は、内容をきちんと真剣にとらえて下さる。
- (5) シートベルトの有効性・締めるべき理由については、農業者の方にはほとんど知られていない。
- (6) 点ではなく面的に多数の者に情報を伝えるパンフ配布・記事・放送等の間接手段は、時間をかけ反復的に行う必要がある。

2. シートベルト啓発動画の作成「シートベルトしていますか」

(1) 内容・構成等

主として農作業安全研修等に用いることを想定して、啓発動画を作成した。乗用型トラクターのシートベルトに的を絞ったもので、このようなものは我が国で初めてである。目的が単一であることから時間的にはあまり長くはしないこととし、7分40秒の動画とした。その目的からして模型やアニメーションを取り入れるなど、視聴者が締めるべき理由を理解しやすいものとするよう、心がけた。

①プロローグ 1



斜面を走行する模型のトラクター

②プロローグ 2



実物トラクターの、あまり使われていないシートベルト

操縦者の「シートベルトなど締めたことないよ」との発言

③横転を再現した模型動画



横転の際、ベルトをしていないと体が飛び出し、本体に押しつぶされることがあることを再現した場面

④横転を再現したアニメーション動画



横転の際、ベルトをしていれば安全な空間にとどまられることを示したアニメーション

⑤転倒角体験装置



イベント会場に設置されたトラクターが転倒する角度を認識してもらうための装置を、来場者が体験している場面

⑥安全フレームとシートベルトはセット



ハウスを例に、シートベルトを折りたたむ必要がある場合もあるが、それが解消したらすぐにフレームを立て、シートベルトをすべきことを説明する場面

⑦被追突時のシートベルト



道路上で車に追突された場合も、シートベルトが身を守ることを示したアニメーション

⑧シートベルトリマインダー



義務付けが予定されているシートベルトリマインダーについて、既に装備されているトラクターもあることを説明した場面

(2) 企画・撮影・編集

本動画の企画・制作等に当たっては、農研機構農業機械研究部門嘱託（元理事）行本修氏に監督的立場で参画いただき、シナリオの取りまとめや撮影・編集全てに渡ってご担当いただきました。また、その他の同部門職員にも様々なご指導をいただくとともに、研究所を撮影場所としてトラクターも使用させていただいたほか、撮影時の運転等にもお世話になった。

基本的な企画は事務局と前述の行本氏で行ったが、制作を発注した事業者である（株）ビオルグも企画段階から参画し、シナリオ等の内容についても事務局と合同で検討にあたった。現地における撮影・収録等もこれらの者が合同で行い、加えて専門のインタビュアー等も依頼した。

(3) 公開

動画は農作業安全研修等を実施する誰でも利用可能なものとし、以下 URL の日本農業機械化協会ホームページで公開した。当該ページでは、YouTube を用いた視聴、mp4 データのダウンロードいずれも可能とした。

【公開 URL】 <https://nininoki.or.jp/bloc3/karte/>

加えて、一般の DVD プレーヤーで視聴可能な DVD ディスクも作成し、農研機構、各都道府県農作業安全担当部局、各府県農業機械士会等に配付した。

IV. 参考資料

1. シートベルト啓発用パンフレット

観察調査のための研修実施、現場での声かけ、アンケート調査のための研修実施、イベントでの配布等、さまざまな用途に用いるためのパンフレットを作成した。

シートベルトで トラクター 安全性8倍！

万が一、ひっくり返ったときに・・・

ベルトあり

「安全域」という何かにぶつからない範囲にとどまることができる

事故時の死亡率
3.2%

ベルトなし

体がどこに飛んでいくかわからない 下敷きになる恐れも

事故時の死亡率
24.5%

ヘルメットでさらに
安全性大幅アップ

※平27～令元の農耕車交通事故による死亡率
警察庁データをもとに日
本農業機械化協会集計

農林水産省 農作業安全総合対策推進事業
全国農業機械士協議会 一般社団法人日本農業機械化協会

シートベルトって、すごい。

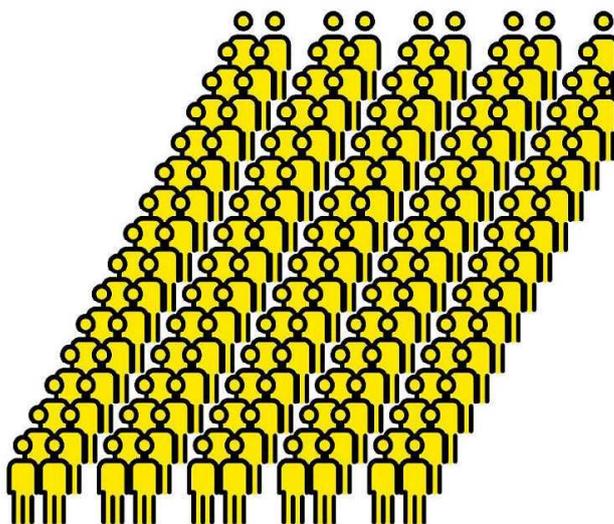
トラクター等の交通事故による死亡者数

シートベルト着用あり

シートベルト着用なし



3人



148人

※農耕車の公道での交通事故による死傷者計(平成27~令和元年度合計:697人)の内数
(公財)交通事故総合分析センターの集計結果より作成

トラクターを運転するときは
シートベルトを着用しましょう!!

農林水産省

全国農業機械士協議会

一般社団法人日本農業機械化協会

※本ページは農林水産省作成の意匠を利用しました

2. 調査担当農業機械士への説明用資料

一般社団法人日本農業機械化協会

○令和5年度 シートベルト実地点検事業の実施方法

就業者当たりで見ると、未だに減少どころか微増傾向をみせている農作業死亡事故。うち農業機械によるものは事故全体の2/3ぐらいで、毎年200人弱程度となっていますが、その4割以上は乗用型トラクターが原因で、機種別で見ると圧倒的一位です。そのトラクター死亡事故のうち2/3が、トラクターの転落・転倒によるものとなっています。

このトラクター転落・転倒による死亡事故は画期的に減らす方法があります。それはシートベルトを装着することで、装着していれば死亡率が1/8になるというデータがあります※。
(※平27～令元：警察庁による道路上事故データを加工)

では実際の装着率がどれくらいであるかということ、昨年度当協会が実施した事業により全国を平均して10%強という調査結果がありますが、調査地点によるデータのバラツキが大きい等、さらに詳細を調べて検証する必要があります。加えて、どのような取組みをすればこの実態や必要性をトラクター使用者に分かっていただき、装着率をアップできるのかについては、よく分かっていないとの課題もあります。

このため、今年度においては複数の啓発取組みをやってみて、その取組み前後における装着率の実態を調査するなどにより、装着率実態把握の高精度化と効果的な取組み方法の掌握を目指すものとします。

全国農業機械士協議会の協力の下に、日本農業機械化協会がこの事業を担当して実施いたします。具体的には以下のような形で実地調査と啓発取組みを進めていきたいので、よろしく願いいたします。

1. 実施期間

事業全体の実施：令和5年4月～令和6年3月

うち啓発取組みの実施：令和5年7月～令和5年12月目途

2. 実施内容概要及びスケジュールの目途

(スケジュールは稲作主体の地域を想定して作成したが、他作目の場合などはこれに

こだわる必要はない)

- (1) 1回目の装着率実地調査：4～5月(春作業時)
- (2) 装着率向上啓発取組み：1回目調査終了後～年内の間で実施
- (3) 2回目の装着率実地調査：啓発取組み後すぐ
- (4) 3回目の装着率実地調査：2回目調査の1～2ヵ月後

3. 実施する人

(1) 実地調査

府県農業機械士組織所属の農業機械士であれば誰でもかまいません。また、県ごとに実施者数の制限はありません。

(2) 啓発

取組み内容によって異なることとなりますが、府県農業機械士会との連携の下に実施していただければ、農業機械士のほか例えば自治体職員やJA職員など特に誰でもかまいません。

4. 実地調査・啓発の対象となる人

トラクターを運転する農業者（農業法人の従業員を含む、公的機関職員や販売店従業員等は除く）

5. 実地調査・啓発の対象地域・人数

基本的にはひとつの「地域」を設定して、調査・啓発の対象とします。地域の広がりには厳密な決まりはありませんが、調査実施や啓発取組みの実際を想定すると核となる農業機械士の所在地の周囲で、それぞれの農業機械士の顔が繋がった方々のいる地元を対象にさせていただくことを想定しています。農業機械士会が本事業を実施するのは、全国に存在し、機械士自らが農業者でこのような地域に密着した効果的な活動が期待できるからです。具体的な対象地域としては集落から大字の範囲内程度を想定していますが、これにこだわる必要はありません。特に啓発については、取組み内容によってより広く、例えばJA管内全体などもあり得ます。

当該地域のなかで、出来れば50人、少なくとも20人程度を対象として実地調査・啓発を実施して下さい。

6. 実地調査の実施方法

聞き取りによる調査ではなく、トラクターが道路上やほ場内で運行されている場面で、操縦者がシートベルトを装着しているかどうかを目で見てチェックするのが基本となります。従って調査者が調査を行う地点は、道路（農道を含む）またはほ場の上かその近

辺を原則とします。シートベルトの確認が出来るのであれば、調査者が自動車等に乗ったまま実施しても差し支えありません。

ただし安全キャブの場合は外から目で見てもシートベルトの確認はできない場合がほとんどと考えられますので、可能であれば呼び止めて扉を開けてもらいチェックして下さい。安全フレームであってもチェックのために近寄っていけば、やはり呼び止めるような格好になることも多いと思いますので、同様にさせていただいて結構です。

ほ場でトラクターから降りて運行以外の作業中や休憩中の方に行き当たる場合もあるでしょうが、このような場合は「目で見てチェック」するわけにはいきません。チェック対象から外するのが基本とはなりますが、相手がお知り合い等で発言が信用できると判断される場合には調査対象に加えても差し支えありません（この場合は「トラクターを降りる直前にシートベルトを装着していたかどうか」の聞き取り調査となります。）。

実地調査はひとりで行っても複数人連れだっても実施されても結構です。また、例えば県庁や市町村役場の担当者等と同行されても差し支えありません。

1回目から3回目まで実施方法は基本的に同じですが、次のように若干の違いもあります。

1回目：地域の現状における装着率把握が目的なので、対象は誰でも差し支えありません。【5ページの調査表で報告下さい】

2回目及び3回目：啓発の内容によって異なってきます。地域の全戸に配布されるような情報誌等でのPRや防災スピーカーによる呼びかけ等、啓発対象が地域全体に及ぶような取組みであれば、1回目と同様、チェック対象は誰でもいいということになります。

一方、研修会や戸別訪問等、相手が特定されるような取組みであれば、チェック対象は原則的にはその啓発対象者に限るということになります。しかし研修受講者から周囲に効果が広がるなど、必ずしも単純にどちらとも言い切れない部分もあると思われる、啓発方法が決まったところで事務局と協議して2～3回目のチェック方法を決定するようにお願いします。【6・7ページの調査表で報告下さい】

7. 啓発の実施方法

事務局では以下のようなものを想定していますが、これらに限るということではなく、それぞれの発想で実施して下さい。また、1地域ひとつに限るということではなく、複数の取組みを実施下さっても結構です。ただし、本事業の趣旨がさまざまな取組みの効果の度合いを調べるということでもあるので、全地域で同じような取組みばかりに集中するのは好ましくないこともあり、啓発の企画立案段階で、事務局と協議いただけるようお願いいたします。また、啓発が自治体やJA主催で行われる場合などに

は、適宜事務局からそれらの組織との連絡調整もさせていただきます。

- ・安全研修会の開催
- ・装着率調査と同時に声かけ・資料配布
- ・集会・イベント等における声かけ・資料配布
- ・戸別訪問等による声かけ・資料配布
- ・安全資料の郵送配布
- ・一斉メール、LINE、SNS 等による呼びかけ・資料配布
- ・地域の防災スピーカー、ケーブルテレビ、地域ラジオ等での放送

8. 啓発費用の支出

啓発取組みに直接必要な費用（研修会場の借料、研修講師の旅費・謝金、資料印刷代、郵便代、放送料、農業機械の運搬費など。ただし研修受講者の旅費、みやげ代や飲食費などは不可。）は支出いたします。

9. 謝金の支出

シートベルト装着のチェック 1 台分につき 1,000 円（源泉徴収前）の調査謝金を実施した農業機械士に支出します。なお、上記 6. にあるようにチェックを複数人で連れ立って実施することは差し支えありませんが、謝金は代表者おひとりに支出することとなります。

10. 事務局

全国農業機械士協議会の事務局である日本農業機械化協会が本事業の実施を担当します。担当者名等は以下のとおりですので、何なりと気軽にご相談下さい。

一般社団法人 日本農業機械化協会

〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16

TEL:03-3297-5640 FAX:03-3297-5639 MAIL:tenken@nitinoki.or.jp

担当者名 **省 略**

【1回目】

通し番号_____

シートベルト装着確認シート【乗用型トラクター】

県名	担当農業機械士名	実施日	月	日
----	----------	-----	---	---

※以下は原則として聞き取りによらず、実施者が見たままを記入して下さい。なお、ベルト装着の状況が確認できない場合は、報告の対象から除外して下さい。

確認時の状況	<input type="checkbox"/> ほ場作業中 <input type="checkbox"/> 道路走行中 <input type="checkbox"/> その他休憩中等			
安全キャブ・フレーム	<input type="checkbox"/> キャビン装備 <input type="checkbox"/> 安全フレーム装備 <input type="checkbox"/> いずれもなし			
シートベルト装着	<input type="checkbox"/> 装着 <input type="checkbox"/> 非装着 <input type="checkbox"/> 装備なし			
ヘルメット装着	<input type="checkbox"/> 装着 <input type="checkbox"/> 非装着			
安全フレームを倒したまま作業・走行の場合、右に○	<input type="checkbox"/> フレームを倒したまま			
運転者の特性 ※見た目の印象で可	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明			
	<input type="checkbox"/> ～40歳 <input type="checkbox"/> 40歳～60歳 <input type="checkbox"/> 60歳～80歳 <input type="checkbox"/> 80歳～ <input type="checkbox"/> 不明			
[その他特記事項]				

確認時の状況	<input type="checkbox"/> ほ場作業中 <input type="checkbox"/> 道路走行中 <input type="checkbox"/> その他休憩中等			
安全キャブ・フレーム	<input type="checkbox"/> キャビン装備 <input type="checkbox"/> 安全フレーム装備 <input type="checkbox"/> いずれもなし			
シートベルト装着	<input type="checkbox"/> 装着 <input type="checkbox"/> 非装着 <input type="checkbox"/> 装備なし			
ヘルメット装着	<input type="checkbox"/> 装着 <input type="checkbox"/> 非装着			
安全フレームを倒したまま作業・走行の場合、右に○	<input type="checkbox"/> フレームを倒したまま			
運転者の特性 ※見た目の印象で可	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明			
	<input type="checkbox"/> ～40歳 <input type="checkbox"/> 40歳～60歳 <input type="checkbox"/> 60歳～80歳 <input type="checkbox"/> 80歳～ <input type="checkbox"/> 不明			
[その他特記事項]				

確認時の状況	<input type="checkbox"/> ほ場作業中 <input type="checkbox"/> 道路走行中 <input type="checkbox"/> その他休憩中等			
安全キャブ・フレーム	<input type="checkbox"/> キャビン装備 <input type="checkbox"/> 安全フレーム装備 <input type="checkbox"/> いずれもなし			
シートベルト装着	<input type="checkbox"/> 装着 <input type="checkbox"/> 非装着 <input type="checkbox"/> 装備なし			
ヘルメット装着	<input type="checkbox"/> 装着 <input type="checkbox"/> 非装着			
安全フレームを倒したまま作業・走行の場合、右に○	<input type="checkbox"/> フレームを倒したまま			
運転者の特性 ※見た目の印象で可	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 不明			
	<input type="checkbox"/> ～40歳 <input type="checkbox"/> 40歳～60歳 <input type="checkbox"/> 60歳～80歳 <input type="checkbox"/> 80歳～ <input type="checkbox"/> 不明			
[その他特記事項]				

※担当機械士、月日が異なる場合、2項目め以下が空欄でも新しいシートを使って下さい。通し番号は機械士毎として下さい。

※次ページ以降、2～3回目の調査結果報告様式が掲載されていたが、1回目とほぼ同様の様式なので省略。

3. 横芝光町農業振興大会 農作業安全研修資料（抜粋）

全 35 ページの資料のうち、シートベルト装着促進に関係の深いページを抜粋。当日はこれらを強調して説明。

乗用型トラクターの転落転倒事故 要因から導き出された対策

機械や器具に関わること

- 安全フレームを立てて、シートベルトを締めていれば助かったはず

事故現場の環境に関わること

- 一見、何の危険もないように見慣れた風景でも、トラクターが転倒するには十分な危険が潜んでいることに気づく（気づいてもらう）
- 路肩に等間隔に注意を引く竿などを立てる

作業・管理に関わること

- 安全キャブ・フレーム、シートベルトの重要性を知る機会を設ける
→ 研修、広報、地域の話し合いなど

人に関わること

- 低速でも死亡事故は起きる、よそ見や「ながら運転」は厳禁

12

事故事例 死亡例 乗用型トラクターの被追突事故

【事故の概要】日没の約30分後、ブロードキャストを装着したトラクター（26PS、2柱式安全フレーム仕様）で帰宅していた。国道の左側車線を走行中、乗用車に追突され、道路外に押し出されて側溝に転落。被災者はトラクターから投げ出され、全身を強く打ち死亡。投げ出されていることから、シートベルトを装着していなかったとみられる。

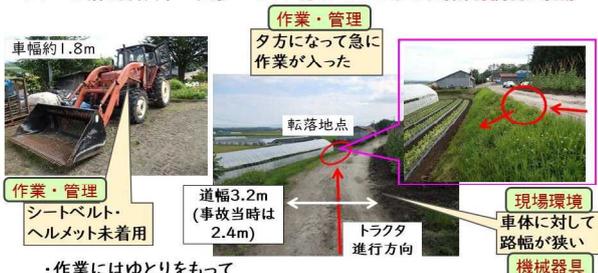


- 特に路上では必ずシートベルトの装着
- 自動車との速度差を考慮し低速車マーク、適切な灯火類の装着
- 道路への街路灯や「農耕車注意」等の看板設置・日没前に運行

14

事故事例 乗用型トラクターの転落転倒事故

【事故の概要】夕方にトラクターで走行中、右側の畑の支柱が目に入って脇見運転となり、左側斜面に脱輪したため、ローダーで後方へ引き上げてもらう途中でトラクターが傾き、斜面下へ転落 → キャブ付きにもかかわらず頭部打撲及び裂傷



- 作業にはゆとりをもって
- 特に危険な作業は、絶対にシートベルト・ヘルメット着用
- 【良かった点】事故後、自ら道路の拡幅をした → 適切な環境づくり

15

乗用型トラクター事故 「安全キャブ・フレーム」「シートベルト」「ヘルメット」の有用性

- 転落転倒事故に備えるためには、安全キャブ・フレームが必須です。キャブ・フレームは転落転倒時の衝撃吸収、安全空間確保をしてくれます。その上で…

- シートベルトをしていれば、転倒しても助かる可能性が8倍アップ ※27～令元のデータ

シートベルト	死亡者	重傷者	軽傷者	合計
着用	3 (3.2%)	10 (10.8%)	80 (86.0%)	93
非着用	148 (24.5%)	175 (29.0%)	291 (46.5%)	614
不明	5 (10.2%)	24 (49.0%)	20 (40.8%)	49
合計	156 (20.9%)	209 (28.0%)	381 (51.0%)	746

資料：(公財)交通事故総合分析センターのデータを日本農業機械化協会が集計

16

乗用型トラクター事故

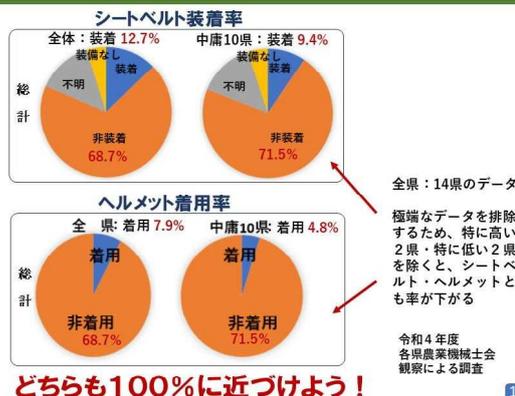
フレームは倒したまま運行しない

- 可倒式フレームを倒したままの運行・作業は絶対にしないこと
- ちなみに、フレームのないトラクターは買い換えを



17

乗用型トラクター シートベルト・ヘルメット装着率



18

安全確認と予防対策で公道での農機による死亡事故を防ぎましょう!

安全フレーム、安全キャブ付きトラクターを使用し、
低速車マークの設置、シートベルト・ヘルメット着用を
徹底しましょう。



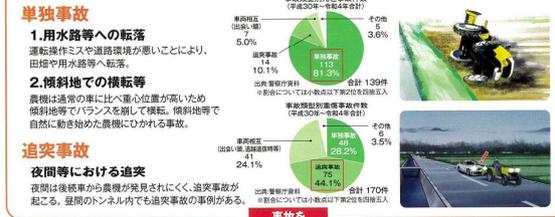
農林水産省の最新の調査データによると、近年300人前後の方が農作業中の事故で亡くなっています。グラフからもわかるように、農作業中の死亡事故は一般交通事故の約5倍、建設業の約2倍にも及びます。農機事故を未然に防ぐために備えるべき機器(ランプ等)や操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。



公道での農機による交通事故の要因と対策



公道での農機の交通事故は大きく分けて**単独事故**と他の車両からの**追突事故**の2種類があります。



公道での農機による交通事故対策の**3つのポイント!** 対策と準備が重大な事故を防止します。

- ポイント1 確実な運転操作とブレーキ連結の確認**
農機による死亡事故は、ハンドルやブレーキ操作ミスによる単独事故が多いため、道路状況等に応じた確実な運転を行いましょう。道路走行時は必ず左右のブレーキを連結しましょう。農作業前後に道路を走行する際は、ブレーキ連結をしていないと、ブレーキを踏んだときに急旋回して転落、横転する事故につながる恐れがあります。
- ポイント2 安全キャブ・フレームの装着とシートベルト・ヘルメットの着用**
救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用しましょう(安全フレームは倒さずに使しましょう)。農機による交通事故においても、シートベルト着用の有無により死傷状況が大きく異なります。トラクター等の農機運転中は必ずシートベルトを着用しましょう。また、ヘルメットの着用にも努めましょう。
※車種によっては取り付けられないものもあります。
- ポイント3 ランプ類や低速車マーク等の取り付け**
一般車両との接触や追突を防ぐためには周囲に気づいてもらうことが大切です。「低速車マーク」や「反射板」を設置しましょう。また、作業機を付けて公道を走行するためには、基本的にランプ類の増設等が必要です。

農林水産省 警察庁 JA共済

警察配布資料

日本農業機械化協会からは、前ページ横芝光町研修資料のさらに抜粋を配布。

5. アンケート調査票様式

※標準的様式として作成したもの。個々の取組内容により一部改変あり。

【1回目】

実施：一般社団法人日本農業機械化協会

乗用型トラクターのシートベルト装着アンケート

研修名、実施機関名、実施日（予め記入）

※本アンケートはシートベルトの装着促進を目的とした農林水産省事業の一環で実施しているものです。個人情報等を他の目的に使うことは一切ありませんので、ありのままをご記入下さるようお願いいたします。なお、本日の研修終了一定期間後に郵便等により再度、アンケートをさせていただきますので、ご協力下さるようお願い申し上げます。

ご氏名		性別	男	女	年齢	歳
ご住所	〒					

【経営概況】 ※主要なもののみのご記入で結構です

経営形態	()個別経営 ()法人・協業等						
主要作目 (複数回答可)	()水稲 ()畑作物 ()野菜 ()果樹 ()畜産 ()その他						
水稲以外主要作目の作物名・畜種名							
経営面積等	田：	ha	普通畑・樹園地：	ha	飼料畑：	ha	その他：

【ご使用のトラクター】 ※複数ある場合はよく使う順に3台までご回答下さい

1台目	馬力：	PS
安全キャブ・フレーム	()キャビン装備 ()安全フレーム装備 ()いずれもなし	
シートベルトの装備	()ついている ()ついていない ()分からない	
2台目	馬力：	PS
安全キャブ・フレーム	()キャビン装備 ()安全フレーム装備 ()いずれもなし	
シートベルトの装備	()ついている ()ついていない ()分からない	
3台目	馬力：	PS
安全キャブ・フレーム	()キャビン装備 ()安全フレーム装備 ()いずれもなし	
シートベルトの装備	()ついている ()ついていない ()分からない	

【運転時のシートベルト装着】 ※上記1台目を使うときの行動を1.2.ともいずれかひとつに○をして下さい

(1)	()シートベルトを締めたことは一度もない/ほとんどない→A.へ
道路	()たまに締めている[このようなとき：_____]→A.へ
走行	()だいたい/いつも締めている→B.へ
行	()その他[その他の内容：_____]
(2)	()シートベルトを締めたことは一度もない/ほとんどない→A.へ
ほ場	()たまに締めている[このようなとき：_____]→A.へ
作業	()だいたい/いつも締めている→B.へ
	()その他[その他の内容：_____]

(注) この質問の1.と2.で○の位置が異なる場合、必要に応じて次のA.B.両方ともご回答下さい

A. 【前の質問で、「A.へ」のところに○を付けた方】

シートベルトを締めない理由は何ですか ※複数回答可

<p><input type="checkbox"/> ()トラクターは速度が遅いので必要ない</p> <p><input type="checkbox"/> ()自分は十分気をつけているので、事故に会うことは考えられない</p> <p><input type="checkbox"/> ()ほ場では乗り降りが多く、いちいち締めていられない</p> <p><input type="checkbox"/> ()周りで締めている人はおらず、それが普通だと思う</p> <p><input type="checkbox"/> ()特に考えたことはない、締めるという発想がなかった</p> <p><input type="checkbox"/> ()締めた方がいいのかなとは思いますが、やはり面倒くさい</p> <p><input type="checkbox"/> ()取り締まられたことがないので、締める必要はない</p> <p><input type="checkbox"/> ()果樹園やハウス内の作業でフレームを倒しており、締める必要はない</p> <p><input type="checkbox"/> ()ベルトがどこにあるか知らない</p> <p><input type="checkbox"/> ()その他[その他の内容: _____]</p>
--

B. 【前の質問で、「B.へ」のところに○を付けた方】

シートベルトを締める理由は何ですか ※複数回答可

<p><input type="checkbox"/> ()以前から必要性を理解しており締める習慣がついている</p> <p><input type="checkbox"/> ()事故や危険（ヒヤリハット）の体験をして、その後は締めるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ()取扱説明書や広報誌などに必要性が書いてあった</p> <p><input type="checkbox"/> ()部品としてついているものなので、締めたほうがいいのだろうと思った</p> <p><input type="checkbox"/> ()安全研修や購入・整備時などに研修講師・販売店・JAからすすめられた</p> <p><input type="checkbox"/> ()家族や知人などからすすめられた</p> <p><input type="checkbox"/> ()所属している組織で締める決まりとなっている</p> <p><input type="checkbox"/> ()取り締まりにあうといやなので、特に路上では締めている</p> <p><input type="checkbox"/> ()その他[その他の内容: _____]</p>

【その他】トラクターのシートベルトに関し、何かご意見があればお書き下さい

<p> </p>

【ヘルメット】併せてヘルメットについて、お聞きいたします

1. 農作業のためのヘルメットをお持ちですか ()持っている ()持っていない

2. 持っている方にお聞きします。どのようなときにお使いになりますか ※複数回答可

<p>①次の機械にはよく使う: <input type="checkbox"/> ()乗用型トラクター <input type="checkbox"/> ()歩行型トラクター <input type="checkbox"/> ()コンバイン</p> <p><input type="checkbox"/> ()田植機 <input type="checkbox"/> ()農用運搬機 <input type="checkbox"/> ()SS <input type="checkbox"/> ()刈払機 <input type="checkbox"/> ()その他: _____</p> <p>② <input type="checkbox"/> ()高所作業時によく使う ③ <input type="checkbox"/> ()その他次のようなとき: _____</p> <p>④ <input type="checkbox"/> ()持ってはいるが、あまり／ほとんど使わない</p>
--

【2回目】

実施：一般社団法人日本農業機械化協会

乗用型トラクターのシートベルト装着アンケート

研修名、実施機関名、実施日（予め記入）

※本アンケートは上記研修を受講下さった方をお願いしています。シートベルトの装着促進を目的とした農林水産省事業の一環で実施しているものですが、研修受講の効果を実際以上に美化する必要はありませんし、個人情報等を他の目的に使うことは一切ありませんので、ありのままをご記入下さるようお願いいたします。なお、ご回答いただいた方には後日、全国のコンビニ等で利用できるQUOカード(1,000円)を進呈いたします。

ご氏名		性別	男	女	年齢	歳
ご住所	〒					

【トラクター運転時のシートベルト装着の変化】

先般の研修受講後、トラクター運転の際シートベルトの装着状況に変化がありましたか

()装着することが増えた ()特に変わらない ()その他：_____

【最初の質問に「装着することが増えた」とお答えになった方】

1. 現在の装着状況をお答え下さい ※1.2.ともそのなかでいずれかひとつに○をして下さい

(1) 道路走行	()ほ場では締めることが増えたが、道路では一度もない／ほとんどない
	()たまに締めている[このようとき：_____]
	()だいたい／いつも締めている
	()その他[その他の内容：_____]
(2) ほ場作業	()道路では締めることが増えたが、ほ場では一度もない／ほとんどない
	()たまに締めている[このようとき：_____]
	()だいたい／いつも締めている
	()その他[その他の内容：_____]

2. 装着することが増えた理由は何ですか ※複数回答可

()研修受講で有効性がよく分かった
 ()受講後締めてみたら、それほど面倒でないと感じるようになった
 ()いまでも面倒とは思いますが、有効性がそれを上回ると感じるようになった
 ()周囲の人や家族の模範になるべきと思うようになった
 ()事故や危険な経験（ヒヤリハット）があったのを思い出した
 ()その他[その他の内容：_____]

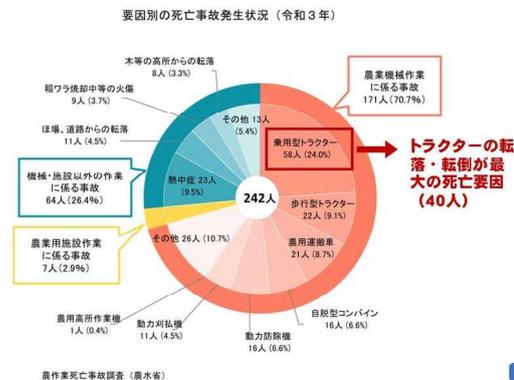
6. 岡山県倉敷河上農機大商談会 安全研修資料（抜粋）

同商談会での農作業安全研修会において、トラクターのシートベルトに特化した内容を日本農業機械化協会から資料配布・説明。以下は全10ページからの抜粋。

今日は、トラクターのシートベルト装着のお願いに参りました

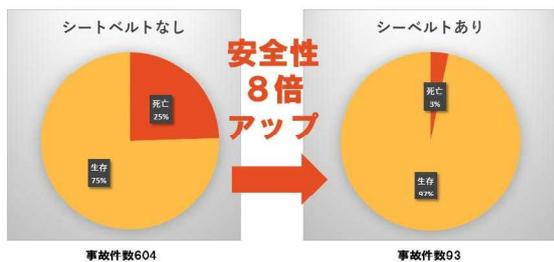
2

死亡事故が最も多いのはトラクターの転落・転倒



シートベルトをすれば死亡率1/8！

- 最近、警察データから道路上の農業機械事故を取り出し集計
- それで分かったことは、シートベルト着用の大きな効果



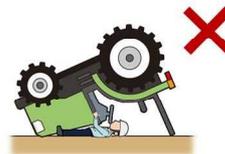
平成27～令和元年の道路上における農耕作業用特殊車の事故（計697件）の集計
※全国の警察データを日本農業機械化協会が加工

7

シートベルトをしていれば安全域から飛び出さない



- シートベルトをしていれば、転倒や追突でも助かる可能性がぐんと高くなる
- ヘルメット装着でさらに安全に



転倒→下敷き



追突→後方飛び出し

8

令和7年度から国ではトラクターに「シートベルト警告灯」の装備を半ば義務化の予定



9

農林水産省の依頼によりシートベルトの装着率を調べています

本日のアンケート、よろしくお願いします

あわせて後日、もう1回アンケートを郵送しますので、ご回答をお願いします

10

7. 全農福岡 大特免許講習会 シートベルト啓発資料

家族や仲間と しっかりと **声をかけ合って** 農作業の事故を防ごう!

あなたも安全を願っています!

ヘルメット、シートベルト、安全キャブ、安全フレーム、安全マーク

平成28年度農作業安全総合対策推進事業
一般社団法人全国農業改良普及支援協会
一般社団法人日本農業機械化協会

最も危険な産業でいいですか?!!

農業は、他の業種に比べて、死亡事故が多く、建設業とほぼ同じ死亡者数で、全体の従事者数を考慮すると大変危険な仕事です!

乗用トラクターによる事故の実態

乗用トラクターの死亡原因
平成26年に発生した農作業死亡事故のうち、乗用トラクターによる死亡事故が27%を占めています。乗用トラクターによる事故の実態は8割近くが、ほ場や道路からの転倒・転落によるものです。

転倒・転落 (道路)	28%
転倒・転落 (ほ場内)	51%

安全キャブもしくはフレーム付きの乗用トラクターを使用している。

《改善のポイント》
農作業事故の現状を知り、積極的な対策を講じましょう。安全キャブ・フレームの効果を高めるため、シートベルトの着用を!

作業終了後、ほ場を出る前にブレーキ連結を確認している。

《改善のポイント》
取扱説明書や販売店の説明などで、自動車とは異なるトラクターの特性を知り、安全で効率的な運転・操作を身につけましょう。

《追加のポイント》
① 新型のトラクターには片ブレーキ防止装置が装備
② ブレーキの遊びの調整を!

常時は連結され、必要な時にだけ連結を解除して片ブレーキとなる装置

表紙のイラストはH28「農作業安全ポスターデザインコンテスト」局長賞(東京都栗村厚さん)の作品です。

キーワードは あの時こうしていたら...

~無理せず早めに作業を切り上げていけば~

キーワード **あの時こうしていたら...**

～無理せず早めに作業を切り上げていけば～

ロータリーを装着したトラクターで農道(木根幹・幅あり)を移動中、崖に脱輪して横転

農道による集中力の欠如と過度な速度、ハンドル操作ミス、シートベルトの未装着

左くるぶしの骨折

疲労を押ししの長時間作業、ハンドル操作ミスで崖に横転

60代の男性が、長時間の作業による疲労で、農道(木根幹・幅あり)を移動中、崖に脱輪して横転した。この時、ハンドル操作ミスで、農道から崖に脱輪し、崖に横転した。この時、ハンドル操作ミスで、農道から崖に脱輪し、崖に横転した。

予想以上にかかる費用、ヒヤッとの共有

横転して左足骨折

横転事故が多発しています

早稲穂の作業準備のため、薄暗いなか急いで走行中、細作農家の男性(60代)がトラクターで農道(木根幹・幅あり)を移動中、崖に脱輪して横転した。この時、ハンドル操作ミスで、農道から崖に脱輪し、崖に横転した。

日没後の公道で、公道でトラクターを運転していたら、(30代)が横転して、公道から崖に脱輪して横転した。この時、ハンドル操作ミスで、公道から崖に脱輪し、崖に横転した。

片ブレーキで排路上に転落

80代の男性が公道を走行中、片ブレーキで排路上に転落した。この時、ハンドル操作ミスで、公道から崖に脱輪し、崖に横転した。

両上り坂の坂道でスリップ

両上り坂の坂道でスリップして、公道から崖に脱輪して横転した。この時、ハンドル操作ミスで、公道から崖に脱輪し、崖に横転した。

予防と対策

安全キャブ・フレーム仕様のトラクターを買い、シートベルト・ヘルメットを着用

車むらや狭い道、坂道などはゆっくり運転や降車速度を低減

作業後、ほ場を出る前にブレーキ連結を確認

トラクターに反斜板・低速車マークを装着

8. JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ合同意見交換会 研修資料

日本農業機械化協会から以下資料に基づきシートベルトの装着促進についての研修を実施。

トラクター乗車にあたりシートベルトを着用して下さい

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ
合同意見交換会 資料

令和5年12月18日

一般社団法人 日本農業機械化協会

農機事故死亡1位のトラクター：シートベルトで死亡率1/8！

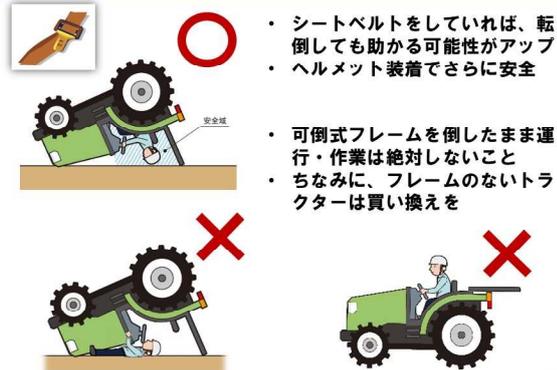
- ・ 警察データから道路上の農業機械事故を取り出し集計
- ・ そのなかにシートベルト着用・非着用のデータあり
- ・ それで分かったことは、シートベルト着用により死亡率は激減可



シートベルトなし死亡率29.0%、あり死亡率3.8% (1/8)
重症率も2倍以上

1

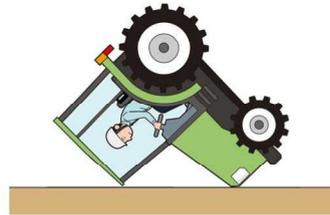
シートベルトをしていれば安全域から飛び出さない



2

シートベルトをしていれば頭を打たない

- ・ キャビン付きであっても転倒すると、中で頭を強打するのは珍しくない
- ・ ヘルメットも必要



3

乗用型トラクターでは、このような事故が発生しています (1) 北海道の傷害例：斜面からの転落

夕方にトラクターで走行中、右側の畑の支柱が目に入って脇見運転となり、左側斜面に脱輪した。知り合いにローダーで後方へ引き上げてもらう途中でトラクターが傾き、斜面下へ転落 → キャブの柱に強くぶつって頭部打撲及び裂傷



- × 急な作業でゆとりがなかった?
- × 特に危険な作業にもかかわらず、シートベルト・ヘルメット未着用
- 後で○事故後、自ら道路の幅幅をした ⇒ 事故になりにくい現場づくり

4

乗用型トラクターでは、このような事故が発生しています (2) 死亡例：道路上の被追突



日没の約30分後、ブロードキャストを装着したトラクター (26PS、2柱式安全フレーム仕様) で帰宅していた。

国道の左側車線を走行中、乗用車に追突され、道路外に押し出されて側溝に転落。被災者はトラクターから投げ出され、全身を強く打ち死亡。

投げ出されていることから、シートベルトを装着していなかったとみられる。



- × 明るい内に帰宅、通行量の少ない道を選ばなかったか? 作業
- × シートベルト・ヘルメット未着用 (特に路上では着用を) 作業 機械
- × 車との速度差があるのに三角反射板、テールライト未装着 機械

5

乗用型トラクターでは、このような事故が発生しています(3)
死亡例：湛水田への転落

農道から脱輪して田植え直後の水田へ**転落転倒**し、トラクターの下敷きになった
 60歳代男性、**溺死**



傾斜30° 高さ約1m

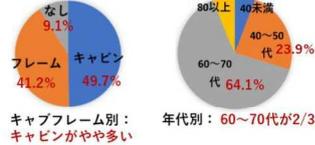
転倒したトラクター

6

昨年度、全国16県で現地調査を実施 (アンケートではなく観察)

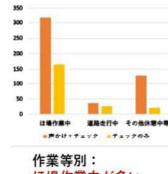
トラクター
 シートベルトを締めているか？
 ヘルメットをかぶっているか？
 安全フレームをきちんと立てているか？

【調査対象の状況】



キャブフレーム別：
 キャビンがやや多い

年代別：60~70代が2/3



作業等別：
 ほ場作業中が多い

8

今年度も継続の調査事業を実施中

本日及び後日、計2回のアンケートへのご協力を
 を宜しくお願いいたします



※シートベルトリマインダーは令和7年度から農研機構検査で義務づけ予定

10

このような事故が発生しています(3) 湛水田への転落 続き

機械や器具に関わること **機械**

×安全フレームが付いていたが、倒したままだった (発生前)

事故現場の環境に関わること **環境**

×傾斜30°、高低差約1mの法面があり、注意喚起表示もなかった
 ○路肩が見えやすく、当該トラクタには十分な道幅だった
 ○交通量は少なく、見通しも良い農道だった (いずれも発生前)

作業・管理に関わること **作業**

×ヘルメット未装着 (発生前)
 ×シートベルト未装着(ただし安フレのない場合は装着しない) (発生前)

人に関わること

×何らかの原因で農道から脱輪してしまった(よそ見?) (発生時)

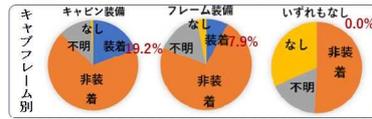
7

調査結果：乗用型トラクター シートベルト装着率



大型の方が高い

高い2県・低い2県を除くと率が下がる



キャブの
 方が高い

ヘルメット着用率



シートベルト
 と同様、高い
 2県・低い2
 県を除くと率
 が下がる

9

9. 館林市農業塾 研修資料（抜粋）

以下資料により日本農業機械化協会から説明。全 28 ページから抜粋。

農機事故死亡1位のトラクター：シートベルトで死亡率1/8！

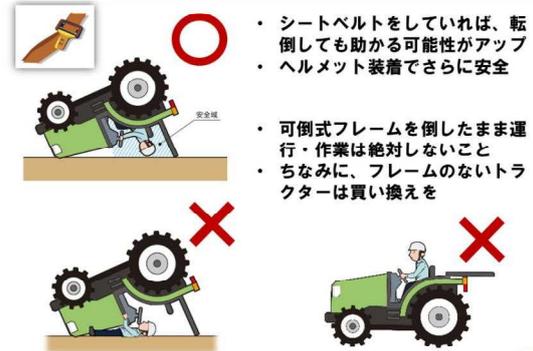
- ・ 警察データから道路上の農業機械事故を取り出し集計
- ・ そのなかにシートベルト着用・非着用のデータあり
- ・ それで分かったことは、シートベルト着用により死亡率は激減可



	死亡者	重傷者	軽傷者	合計
シートベルト着用	3人 (3.8%)	10人 (12.8%)	65人 (83.3%)	78人 (100%)
非着用	119人 (29.0%)	117人 (28.5%)	174人 (42.4%)	410人 (100.0%)
不明	7人 (20.6%)	13人 (39.2%)	14人 (42.2%)	34人 (100.0%)
合計	129人	140人	253人	522人

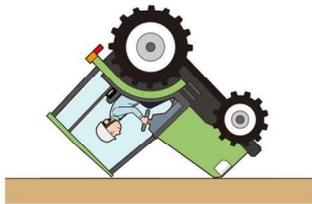
シートベルトなし死亡率29.0%、あり死亡率3.8% (1/8)
重症率も2倍以上

シートベルトをしていれば安全域から飛び出さない



シートベルトをしていれば頭を打たない

- ・ キャビン付きであっても転倒すると、中で頭を強打するのは珍しくない
- ・ ヘルメットも必要



乗用型トラクターでは、このような事故が発生しています(1) 死亡例：湛水田への転落

農道から脱輪して田植え直後の水田へ転落転倒し、トラクターの下敷きになった
60歳代男性、溺死



このような事故が発生しています(1) 湛水田への転落 続き

- 機械や器具に関わること** (機械)
 - ×安全フレームが付いていたが、倒したままだった (発生前)
- 事故現場の環境に関わること** (環境)
 - ×傾斜30°、高低差約1mの法面があり、注意喚起表示もなかった
 - 路肩が見えやすく、当該トラクタには十分な道幅だった
 - 交通量は少なく、見通しも良い農道だった (いずれも発生前)
- 作業・管理に関わること** (作業)
 - ×ヘルメット未装着 (発生前)
 - ×シートベルト未装着(ただし安フレのない場合は装着しない) (発生前)

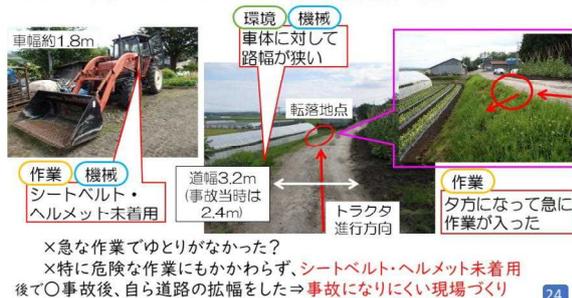
- 人に関わること**
 - ×何らかの原因で農道から脱輪してしまった(よそ見?) (発生時)

乗用型トラクターでは、このような事故が発生しています(2) 死亡例：道路上の被追突



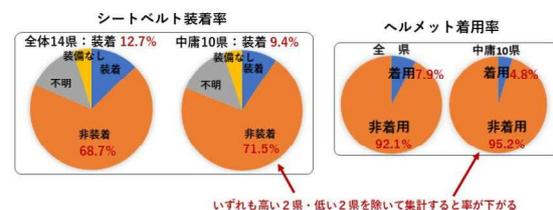
乗用型トラクターでは、このような事故が発生しています(3) 傷害例：斜面からの転落

夕方にトラクタで走行中、右側の畑の支柱が目に入って脳圧運動となり、左側斜面に脱輪した。知り合いにローダで後方へ引き上げてもらう途中でトラクタが傾き、斜面下へ転落 ⇒ キャブの柱に強くぶつけて頭部打撲及び裂傷



昨年度、全国16県で現地調査を実施 (アンケートではなく観察)

トラクター運行中 シートベルトを締めているか?
ヘルメットをかぶっているか?
安全フレームをきちんと立てているか?



資料 No.1798

令和5年度 農作業安全総合対策推進

農作業安全に係る普及啓発手法の見直し等 結果報告書

令和6年3月 印刷発行

一般社団法人 日本農業機械化協会

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館6階

TEL 03-3297-5640

<https://nitinoki.or.jp/>

kikaika-info@nitinoki.or.jp

不許無断複製